

第Ⅱ章 調査

1 調査地域

A 遺跡の位置

飛鳥池遺跡・飛鳥池東方遺跡は、現在の行政区分では奈良県高市郡明日香村の北部にある。明日香村の所在する奈良県は現代の地域区分では近畿地方に属する。紀伊半島の真中に位置し、海に面しない、日本でも数少ない県の1つである。

奈良県と、これに接する京都府、大阪府の中で、古代の国名でいえば大和国、山背(山城)国、河内国、和泉国、摂津国の畿内は、日本古代史上の政治的な中心地であった。律令国家の中心をなす都城は、持統8年(694)に藤原京が都となって以降、延暦13年(794)に平安京へ遷都するまでの間に、平城京、恭仁京、難波京、長岡京がこれらの地に次々と営まれたのである。

特に大和国は古代国家成立に関して最も重要な地であった。四方を山で囲まれた奈良盆地の北部、現在の奈良市、大和郡山市にまたがる地域には、奈良時代の都、平城京が造営された。平城京から約15km南の奈良盆地南部、現在の橿原市、桜井市、明日香村にまたがる地域には、平城京の前の都である藤原京が営まれた。藤原京は、我国ではじめて中国の制度をとり入れて造営された都城である。京の規模については岸俊男の説により、古道である中ツ道と下ツ道を東西の京極とし、横大路を北京極とする東西八坊(約2.1km)、南北十二条(約3.2km)とされてきた。しかし、近年の発掘調査の進展により、これを大きく上まわる規模となることが明らかとなった。条坊構成を平城京と同様として、東西十坊(約5.3km)、南北も十条の説が¹⁾だされている。

耳成山、畝傍山、香久山の大和三山にかこまれた藤原京中心部の南方が、現在の明日香村である。東に南瀬川と冬野川が合流した飛鳥川、西に高取川が流れ、その流域が小さい盆地を形成している。高取川をはさむ丘陵地には終末期の古墳が集中する。東の丘陵には天武持統陵、中尾山古墳、高松塚古墳、キトラ古墳の他、檜隈寺、定林寺、呉原寺などの寺院も位置する。西の丘陵には牽牛子塚古墳、マルコ山古墳、東明神古墳などがある。

飛鳥川流域は右岸がやや幅をもち、南北に細長い平坦地となっており、北は香久山南麓に及び奈良盆地南端に連なる。この飛鳥盆地こそは、7世紀の歴史の中心地であった。崇峻5年(592)、推古天皇は豊浦宮で即位する。その後、持統天皇が藤原宮に遷るまでの一世紀の間は、歴代の天皇の宮が次々とこの地に造営された。同時に飛鳥寺をはじめとする古代寺院が、盆地とその周辺地域につくられた。飛鳥池遺跡・飛鳥池東方遺跡はこの飛鳥盆地の東辺を形成する低丘陵の谷筋に位置する。

B 周辺の遺跡

飛鳥池遺跡の西にひろがる飛鳥盆地には、北に飛鳥寺、南には飛鳥浄御原宮・後飛鳥岡本宮・飛鳥板蓋宮が想定される宮殿遺跡（飛鳥京跡）がある。また、南西の飛鳥川近くには1999年橿原考古学研究所の調査によって7世紀の苑池遺構が発見された²⁾。川をへだてた西側は川原寺の寺域となるが、2003年、寺域北辺の飛鳥川沿いで寺院附属工房跡の調査がおこなわれた。飛鳥池遺跡のすぐ西の丘陵上には飛鳥寺瓦窯、南の丘陵には酒船石遺跡がある。こうしてみると飛鳥池遺跡は盆地の東辺の丘陵谷間とは言え、飛鳥の中央部に位置しているといっても過言ではない。このような環境の中で、飛鳥池遺跡を考えていく上で特に重要な遺跡には、飛鳥寺・酒船石遺跡と川原寺寺域北限の調査で発見された寺院附属工房跡などがあげられる。

飛 鳥 寺

飛鳥池遺跡の北は飛鳥寺東南隅に接する。飛鳥寺は蘇我馬子が建立した、我国で最初の寺院として著名である。記録によれば崇峻元年（588）に造営に着工、推古14年（606）に金銅釈迦像が安置されて完成した。天武9年（680）には大官大寺、川原寺とともに官寺の扱いを受けることとなる。飛鳥寺の発掘調査は1956・1957年に奈良国立文化財研究所がおこない、塔を中心に3つの金堂が配された、広大で特異な中心伽藍が明らかになった。また、南門とその南の石敷広場、西門、西面築地塀などの外郭施設が検出された⁴⁾。その後、寺域関連の調査が北辺、東北隅でおこなわれた。1977年には北限の区画施設である塀と外濠、内濠を検出し、寺域が北に広がることが明らかとなった⁵⁾。さらに1982年の東北隅の調査で、北辺から南へ折れる塀と内側の南北溝を検出した⁶⁾。ただ、北辺とは直角に交わず北で西に振れる。こうした調査によって寺域がほぼ判明しつつあった。1992年には寺域の東南で7世紀後半の礎石建ち基壇建物を検出した⁷⁾（飛鳥寺1992-1次）。調査地は飛鳥寺の塔の真東で、伽藍中軸線から約140mほどの地点である。礎石建ち基壇建物SB840は東西棟で、北で西に8度の振れがある。基壇は旧地表を若干掘り込んだ高さ50cmの版築基壇である。版築土には建物周囲にひろがる焼土も入る。西辺には石積みの外装が残る。基壇上には東西3間・南北2間以上の礎石抜取穴を検出した。東西柱間寸法は、4.05m（13.5尺）である。柱抜取穴からは7世紀後半の土器が出土した。建物の西には南北方向の石列があり、犬走りの見切石と考えられる。このすぐ西に南北溝がある。幅1.2m、深さ60cmで東岸に石組が一部残る。出土遺物から10世紀後半まで機能していたとみられる。他にこの溝に連なる東西溝がある。出土した瓦には飛鳥寺XVII型式や竹状模骨痕をもつ行基葺式丸瓦が多い。1982年の寺域東北隅の調査成果からすると東辺の塀は調査地の東方となり、調査地は飛鳥寺寺域内となる。東辺塀と建物・石列・南北溝の振れは全く同じであり、この建物は7世紀後半、飛鳥寺東南に造営されたものと考えられる。これにより、『続日本紀』・『日本三代実録』にみえる、僧道昭が建てた禅院との関係を推定した。また、1984年には、この調査地の北東にあたる農道部分の発掘調査で、7世紀前半以降の60～70cmに及ぶ厚い整地土層を確認した。この層は炭・焼土を多量に含み、下部には炭の単純層もみられた。1992年の調査で出土した軒丸瓦の同范品が、翌1993年に奈良市教育委員会がおこなった調査で出土した。東南禅院の後身で、平城京右京四条一坊にあったとされる禅院寺に近い、平城京右京三条一坊の鎌倉時代の井戸からの出土である⁹⁾。このことから1992年検出の建物SB840は東南禅院に関わる可能性が

飛 鳥 寺
東 南 禅 院

異なる遺構が検出された。¹²⁾これらの遺構は7世紀中頃から10世紀初頭まで及ぶ。Ⅰ期は7世紀中頃で、湧水施設、石段、砂岩列、柱穴などがある。湧水施設の高さから、亀形石造物・小判形石造物は現在より50cm低いレベルに設置されていたと考えられる。Ⅱ期は7世紀後半で、Ⅰ期の遺構を埋めて新しい施設をつくる。現在の位置に導水施設がおかれる。中央の南北溝を挟んで両側には石敷きの階段や階段状石垣がつくられる。Ⅲ期は7世紀後半～末で、Ⅱ期の遺構を踏襲するが、石造物の周囲を石敷きの広場とする。Ⅳ期は9世紀で、南北溝や石段下部を埋め、新たに南北溝をつくる。湧水施設は機能を停止し、小判形石造物との間に直径50cmの曲物をおき、井戸枠とする。石造物の周辺にはバラスを敷く。Ⅴ期は9世紀後半～10世紀初頭で、Ⅳ期の遺構をひきつぐが、南北溝を再度掘り直している。そして、10世紀前半には埋没がはじまる。これらの遺構については斉明朝から持統朝にかけて、継続的におこなわれた天皇祭祀の場であったことが考えられるが、丘陵上の酒船石を中心とした遺跡全体の中での位置づけが必要であると指摘されている。一方、この遺跡の存在する位置は飛鳥池遺跡のある東の谷の最上流部にあたる。飛鳥池遺跡と酒船石遺跡との関係は極めて大きな問題点となってきた。

川原寺
附属工房

飛鳥川左岸に位置する川原寺は、天智天皇が母（斉明天皇）の冥福を祈り建立したとされる官寺である。1957・1958年の奈良国立文化財研究所の調査で、一塔二金堂の特異な伽藍配置が明らかとなっている。¹³⁾寺域の北部についてはこれまで調査が十分に及んでいなかったが、2003年2～8月に史跡指定地内の整備に伴う、寺域北限の発掘調査がおこなわれた。この調査では北面大垣を検出し、その南側で生産工房跡の存在が明らかとなった。7世紀後半～平安時代までに及んでおり、鉄・銅・銀などの金属製品、ガラス製品、漆製品、瓦などが生産されている。特に7世紀末頃の鉄釜鑄造土坑が良好な状態で検出された。川原寺の造営・修繕にかかわる寺院附属工房と考えられる。生産品の種類など、飛鳥池遺跡と類似しており、飛鳥池遺跡の性格を考える上で極めて貴重な資料である。

-
- 1) 小澤毅「古代都市「藤原京」の成立」『考古学研究』第44巻第3号、1997年。
 - 2) 奈良県立橿原考古学研究所『奈良県遺跡調査概報 1999年度』『同2001年度』2000年・2002年。
 - 3) 奈文研『川原寺寺域北限の調査-飛鳥藤原第119-5次発掘調査報告』2004年。
 - 4) 『飛鳥寺発掘調査報告』奈文研学報第5冊、1958年。
 - 5) 『藤原概報 8』1978年。
 - 6) 『藤原概報 13』1983年。
 - 7) 『藤原概報 23』1993年。
 - 8) 『藤原概報 15』1985年。
 - 9) 原田憲二郎「平城京出土の飛鳥寺軒丸瓦と「竹状模骨痕」をもつ丸瓦」『奈良市埋蔵文化財調査センター紀要 1994』1995年。
 - 10) 明日香村教育委員会『明日香村遺跡調査概報 平成5年度』1994年。
 - 11) 明日香村教育委員会『明日香村遺跡調査概報 平成6年度』～『同14年度』1996～2004年。
 - 12) 明日香村教育委員会『明日香村遺跡調査概報 平成11年度』～『同13年度』2001～2003年。
 - 13) 『川原寺発掘調査報告』奈文研学報第9冊、1960年。

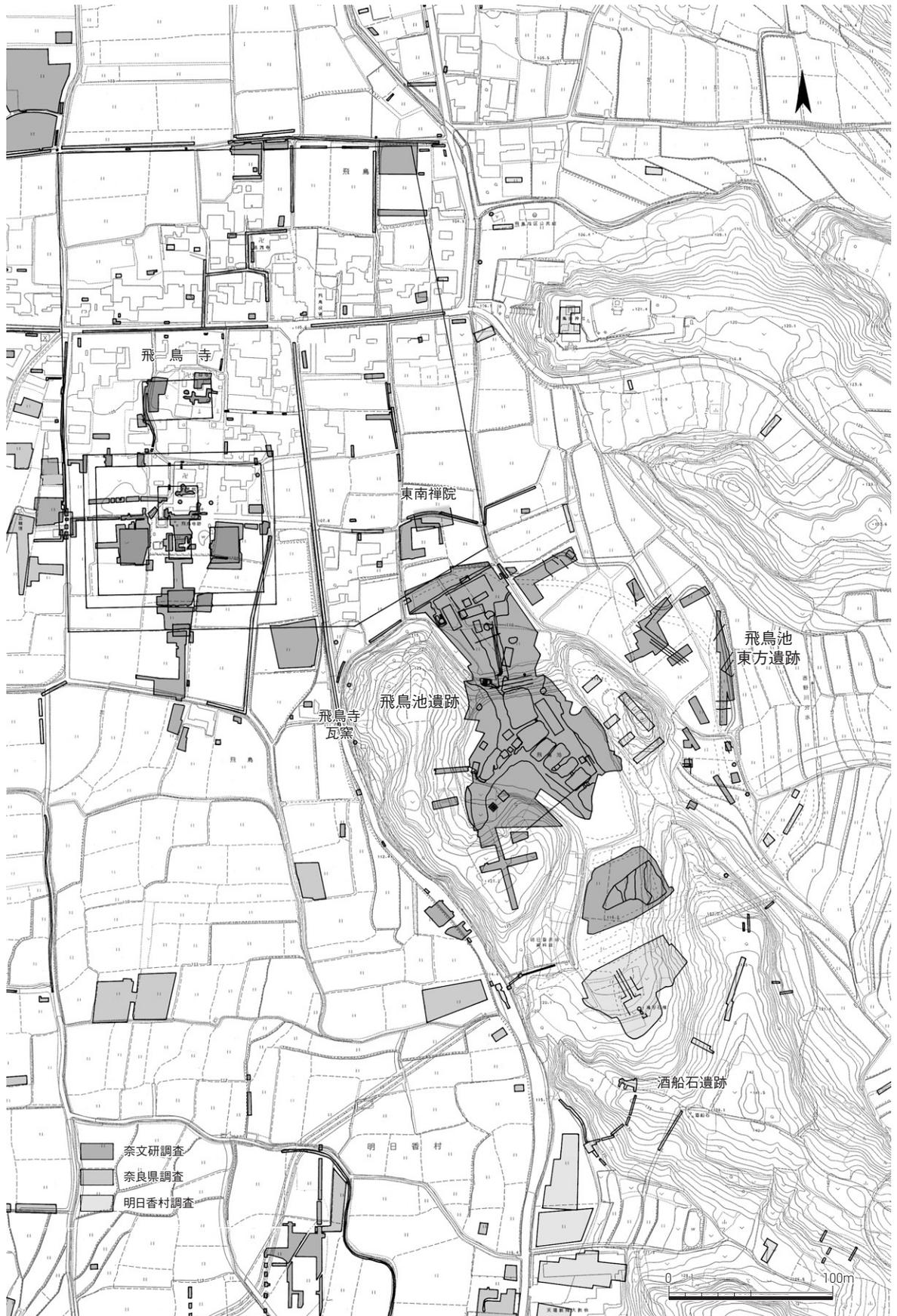


Fig. 3 飛鳥池遺跡・飛鳥池東方遺跡と周辺の発掘調査区 1:3500

C 測量と地区割り

基準点測量 発掘調査で使用した基準点は日本測地系の国土方眼座標系第Ⅵ系に基づいて設置している。数次にわたる調査であるため、それぞれの概要を以下に記す。

飛鳥寺1991-1次調査では、基準点の設置は橿原市基準点No. 13と甘檜丘上の4級三角点である飛鳥を与点とするトラバース測量をおこない（開放トラバース）、水準は奈良県のNo. 1を基準としている。

第84次調査では、4級三角点飛鳥（甘檜丘）から橿原市基準点No. 12に結合するトラバース測量をおこなっている。路線延長3.135km、測点11、角閉合差29″、水平位置の閉合誤差36mm、閉合比1/87,000であった。水準は奈良県のNo. 1を基準としている。

第86・87・92・93・97・98・106・112次調査では、第84次調査で設置した基準点を用いて、調査区近接地に基準点を設置し、位置と標高の基準としている。

遺構の実測と航空写真測量 上記の基準点からトータルステーションで調査区内に基準線を設定し、1/20を基本に一部1/10の実測平面図を作成し、標高を記録した。調査時には標定点を写し込んだ垂直航空写真も実施しており、のちに図化した。図化図面は実測図による校正をおこない、各次数ごとにおこなった図面の接合や編集をおこない編集図を作成した。

改正測量法の施行に伴い、2002年4月1日から日本測地系から世界測地系へ移行することになったが、調査はすべて日本測地系に基づく。そのため、本報告の平面座標は日本測地系で表示し、一部、世界測地系の数値を示すにとどめた。なお、当該地域では日本測地系数座標値を世界測地系座標値に変換するためには、実用上X座標で+346.5m、Y座標で-261.6mを加えればよい。

Tab. 1 垂直写真撮影一覧

調査次数	撮影年月日	フィルム種別	図化に用いた垂直写真
飛鳥寺1991-1次	1991. 7.25	白黒	2コース10カット
飛鳥藤原第84次	1997. 3.11	カラー	1コース3カット
第84次	1997. 4.11	カラー	1コース5カット
第84次	1997. 6.27	カラー	2コース9カット
第84次	1997. 8.12	白黒	4コース37カット
第84次	1997.11. 1	カラー	1コース4カット
第86次	1997.11. 1	カラー	1コース5カット
第87次	1998. 4.17	白黒	1コース5カット
第87次	1998. 7. 1	カラー	1コース4カット
第93次	1998.11. 1	カラー	2コース10カット
第93次	1999. 1.11	カラー	2コース9カット
第93次	1999. 2.10	カラー	2コース8カット
第97次	1999. 4. 9	カラー	2コース9カット
第98次	1999. 6.22	白黒	1コース5カット
第106次	2000. 3.15	カラー	4コース15カット
第112次	2001. 2.27	カラー	1コース3カット

地区割り 飛鳥藤原宮跡発掘調査部では、飛鳥藤原地区の発掘調査において日本測地系の平面直角座標第Ⅵ系に基づく地区割りをおこなっていたが、飛鳥寺1991-1次調査は地区割り設定時に方位の設定に錯誤があり、地区割りの基準方位が国土方眼座標系の方位に対し約6°40′北で西に振れている。このような問題がなくとも、調査が異なれば隣接する地区でもグリッドラインがずれる不都合があったため、1994年度からは広範囲での統一的な地区設定方式に改めた。当該地区では第84次調査からこの方式で調査をおこなっている。

この方式の地区割りは小地区・中地区・大地区からなる。小地区は一辺3mの正方形で、それぞれX座標値・Y座標値ともに3の倍数からなるグリッドで構成される。原則として、中地区は東西222～228m（小地区74～76区画分）×南北54m（小地区18区画分）の区画であり、大地区は東西672m（中地区東西3列分）、南北324m（中地区南北6列分）からなる。中地区南辺をAライン、北へ3mごとにB、C、D…とし、東辺を10ライン、西へ3mごとに11、12、13…とする。すなわち、中地区東南隅を起点A10とし、小地区東南隅のアルファベット1文字と2桁の数字の組合せで表すグリッド名称を小地区名とする。その小地区名の前にアルファベット1文字を



Fig. 4 大地区割図 1:5000

冠し、それが中地区を表す。大地区名は先頭から時代を表す数字（飛鳥時代は5）、遺跡の種類を表すアルファベット（都城はA、寺院はB）、位置または遺跡名（飛鳥寺はAS）を示すアルファベット2文字の組合せからなる。

Tab. 2 地区割りの起点の座標値

大地区	中小地区	X座標	Y座標	大地区	中小地区	X座標	Y座標
5BAS	MA10	-169,158.00	-15,993.00	5AME	EA10	-169,158.00	-15,771.00
5BAS	NA10	-169,212.00	-15,993.00	5AME	FA10	-169,212.00	-15,771.00
5AKA	HA10	-169,266.00	-15,993.00	5AKA	AA10	-169,266.00	-15,771.00
5AKA	JA10	-169,320.00	-15,993.00	5AKA	BA10	-169,320.00	-15,771.00
5AKA	KA10	-169,374.00	-15,993.00	5AKA	CA10	-169,374.00	-15,771.00

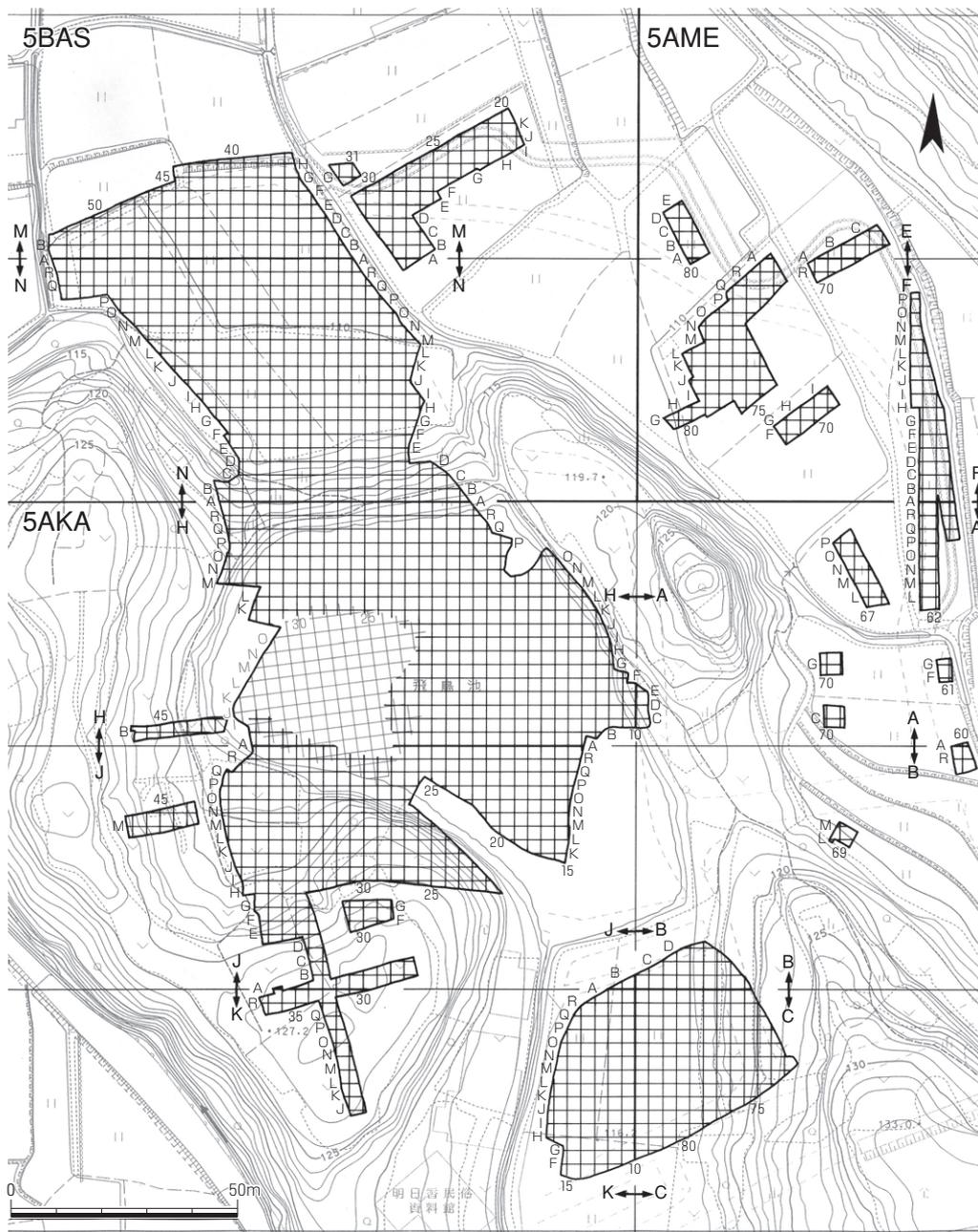


Fig. 5 小地区割図 1:1600 1991-1次調査は、新地区割改正（1994年）以前であるため、5BAS-Wとなる。

2 調査の概要

飛鳥池遺跡は1991年に最初の調査をおこなった。その後、万葉文化館建設に伴って、飛鳥池東方遺跡も含め、1997年1月から1999年11月まで事前の発掘調査を実施した。これに加え、遺跡範囲確認調査を1999年度、2000年度におこなった。両遺跡の発掘調査面積は、立会調査も含めて14,219.5㎡となる。本節では各次数ごとに調査の概要をのべる。調査の進行状況・遺構の概略については次節の調査日誌及び各次数の遺構略図を参照されたい。

A 飛鳥池遺跡

i 飛鳥寺1991-1次調査

飛鳥池遺跡発見の端緒となった調査である。調査区は明日香村教育委員会のおこなった試掘調査の結果を受けて、池内の西北部に設定した。地形で見ると西の谷北半部から、東の谷との合流部にかかると。遺構は主に西の谷の両岸と合流部に残っていた。検出した遺構の時期は大きく7世紀中頃、7世紀後半～藤原宮期、平安時代であるが、その中心は7世紀後半～藤原宮期である。

西の谷筋の整地土上面で、掘立柱建物、掘立柱塀、炉跡、井戸、溝、土坑などを検出した。建物は方位が国土方眼に近いものと、谷地形に沿うものがある。前者は調査区南部の、谷の両岸で検出した(SB747・754・757)。後者には、調査区北半の、合流部に近い西岸にある建物SB785・781やSB805・808がある。SB785・781の内部には炉跡がある。SB785の南には東側柱筋とほぼ揃えて掘立柱塀SA753がある。塀の南東側には炭層が広がっており、この塀は作業区域を限る施設と考えられる。炉跡は鍛冶炉の底部が残ったもので、直径35～40cm、深さ10cm前後である。いずれも内部に炭が充満する。ほぼ同一場所で何度もつくりかえられている。炉SX800からは銅釘・銅切り屑・銅塊が出土し、銅製品と鉄製品の工房が異なる可能性がある。他に西岸に長さ約1m、幅約50cmの大型の炉SX760がある。建物SB785や塀SA753の南から東にかけては多量の炭・灰を含む工房の廃棄物層(炭層)が堆積する。この中から鉄製品、銅製品、鉄・銅滓、鋳型、埴塀、砥石、木製品、木簡などが大量に出土した。

7世紀中頃の遺構は西の谷の東岸付近で、7世紀後半～藤原宮期の整地土・炭層の下層で検出したものである。調査区南辺の東西約3m、南北約4.2mの石敷SX815、その西の石敷SX814と、石敷SX815の北東約10mにある井戸SE822周辺の東西約4m、南北約4.5mの石敷SX823、そして、その間をつなぐ歩道状の石敷SX818から成る遺構である。また、西岸の建物SB805の下層で南東から北西方向の流路堆積層を掘り下げたが、ここから飛鳥I(7世紀中頃)の土器とともに、鞆羽口、鋳滓、漆壺などが少量ながら出土した。

以上のような発掘調査の結果から、この遺跡が7世紀後半から藤原宮期において、金属、ガラス、漆関係の生産工房遺跡であることが明らかとなった。また、7世紀中頃には金属、漆関係の生産が始まっていたことを推定した。調査成果は報道発表し、奈良国立文化財研究所の出

Tab. 3 飛鳥池遺跡・飛鳥池東方遺跡 調査一覧

次数	地区	遺跡	調査期間	面積
飛鳥寺1991-1次	5BAS-W	飛鳥池遺跡	1991. 4. 5~ 8. 9	1,190㎡
飛鳥藤原第84次	5BAS-M・N	飛鳥池遺跡	1997. 1. 8~12. 3	3,000㎡
飛鳥藤原第86次	5AKA-A 5AME-E・F 5BAS-M・N	飛鳥池東方遺跡	1997. 7. 7~11.11	1,112㎡
飛鳥藤原第87次	5AKA-H・J	飛鳥池遺跡	1997.11.12~1998. 7.31	1,900㎡
飛鳥藤原第92次	5AKA-A・B 5AME-E・F 5BAS-M	飛鳥池東方遺跡	1998. 4. 7~ 6.15	604㎡
飛鳥藤原第93次	5BAS-N 5AKA-H	飛鳥池遺跡	1998. 7. 6~1999. 2.23	2,200㎡
飛鳥藤原第97次	5BAS-M	飛鳥寺・飛鳥池遺跡	1999. 3.15~ 5.10	380㎡
飛鳥藤原第98次	5AKA-H・J	飛鳥池遺跡	1999. 3.17~ 9.16	1,200㎡
飛鳥藤原第99-6次	5AKA-H	飛鳥池遺跡	1999.11. 4~11.11	93㎡
飛鳥藤原第106次	5AKA-H・J・K	飛鳥池遺跡	2000. 2. 7~ 4.13	575㎡
飛鳥藤原第112次	5AKA-B・C・J・K	飛鳥池遺跡	2000.12.26~2001. 3.12	1,810㎡

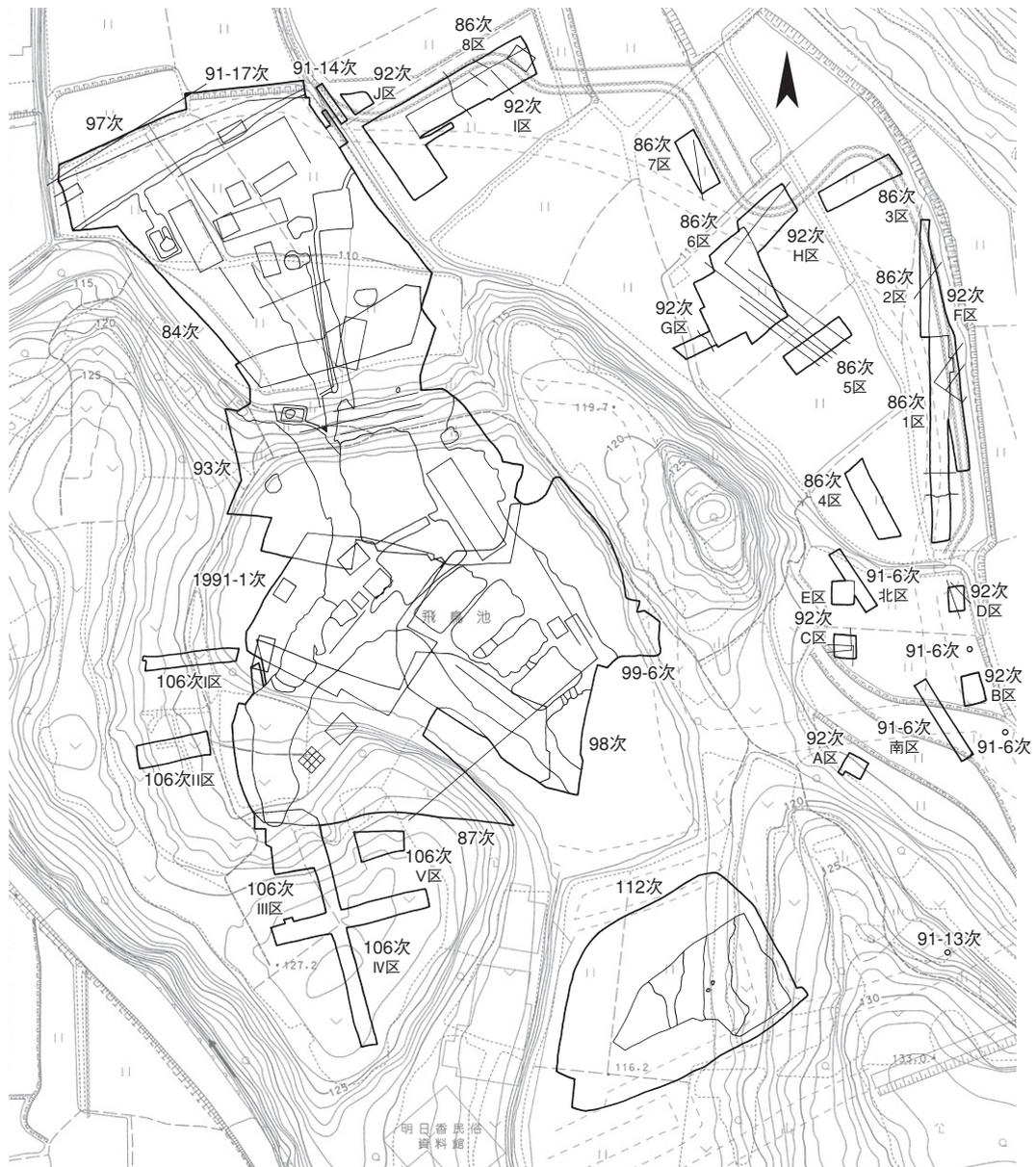


Fig. 6 調査次数と調査区域 1:1600

出版物で公表した他、飛鳥資料館で特別展「飛鳥の工房」を開催し、同展の図録を刊行した。飛鳥池遺跡は古代の生産遺跡の発見として注目されることとなった。

ii 飛鳥藤原第84次調査

1996年、奈良県は飛鳥池の埋立地を中心に万葉文化館を建設し、周辺一帯も整備する計画をたてた。この事前調査の第1次として、飛鳥池堤防の北側で、谷の出口にあたる地区約3,000㎡を調査区とした。飛鳥寺1991-1次調査で明らかとなった工房遺構北側の様相を把握するとともに、調査区北部が飛鳥寺寺域南限に想定されることから、飛鳥池遺跡と飛鳥寺寺域との関係を明らかにすることが主な目的である。調査の結果、7世紀後半から平安時代・中世にわたる遺構が複雑に重複していた。

調査区北辺で、バラス敷の東西方向の道路SF1070を検出した。地形に合った、東で北に振れる方位をもち、西側の丘陵北裾から谷の出口を走ると推定される。南側には側溝SD1080がある。幅1.5～2.2mの大溝で、一部に石組の護岸が残る。位置的に見て飛鳥寺の南を走る道路と考えられる。このことから寺の南面大垣は、丘陵前面あたりから、東で北に振れることが推定された。また、道路部分の下層では、道路に比べ東で北に振れが大きい2条の溝（SD1071・1072）がある。最も古い溝SD1072は北岸を石組で護岸する。溝SD1080の南には、これと平行する掘立柱塀SA1139・1083がある。これにより、道路SF1070から南を飛鳥池遺跡として認識していくこととなった。

飛鳥寺南の
東西道路

道路SF1070の南側には掘立柱建物・掘立柱塀が多く建つ。道路の方位にほぼ合うものと、これとはやや方位を異にするものがあり、後者が新しい。この中で建物SB1141・1134は、桁行6間、梁行2間で、規模の大きい建物である。調査区西端部には石敷井戸SE1090がある。井戸枠から北方向と石敷周辺に排水溝があり、暗渠SX1094で北の道路側溝SD1080へつながる。土坑を多く検出したが、そのうち3ヵ所からは木簡が出土した。中でも調査区東南部の土坑SK1153からは2,000点以上が出土した。

また、調査区東辺ほぼ中央に石組方形池SG1100があり、これと関連する注目すべき遺構群が明らかとなった。方形池SG1100は底面で東西約7.9m、南北約8.6mで、玉石積は最も高いところで7段、高さ約1.5m残っていた。埋土からは木簡・木器（椀）・鉄器、漆壺や土師器鍋などが出土した。方形池SG1100の東北隅には排水用の石組排水路SD1101があり、北東方向へのびる。調査区南辺中央から方形池SG1100西南隅に向かって、素掘りの導水路である南北溝SD1110がある。途中に堰SX1111を設けており、その南の溝底の木屑層からは大量の木簡が出土した。南北溝SD1110の西側には塀SA1120・1121がつくられる。堰SX1111の西側には踏石列SX1174・1123がある。堰SX1111の管理用の通路と考えられる。塀SA1120・1121の西側には幅6～7mの南北大溝SD1130がある。谷中央を埋めて南北溝SD1110、塀SA1120・1121をつくる一連の工事の中で埋め立てられたものである。埋土からは大量の木簡が出土した。南北溝SD1110に西から注ぐ溝は南北塀SA1120・1121部分を木樋でくぐる。

石組方形池
と導水路

以上のように飛鳥寺寺域南限及び飛鳥池遺跡北限の手がかりを得ることができた。道路SF1070から南側の様相が明らかとなったことにより、飛鳥寺1991-1次調査区の遺構状況と比較する資料が得られた。また、この調査では約8,000点を数える大量の木簡が出土した。「天皇」「飛

大量の木簡

鳥寺」や辞書木簡、寺号木簡などを含み、飛鳥池遺跡の性格を考えていく上での重要な資料と考えられた。

iii 飛鳥藤原第87次調査

西の谷の南半部、二つの谷をわける南側の丘陵斜面と東の谷の西岸部の調査区で、飛鳥寺1991-1次調査区に接する。西の谷筋の工房遺構を明らかにすることが目的である。

西の谷の両岸に、炉跡を20基以上検出した。いずれも鍛冶炉の底部分がわずかに残ったものである。特に調査区南端の谷奥の平坦面と中央部西岸の平坦面に集中していた。

倉庫 調査区西北端の谷西岸では、飛鳥寺1991-1次調査区からつづく掘立柱建物が1棟ある。南側の丘陵西北斜面には2棟の掘立柱建物SB1603・1604がある。丘陵斜面を削って造った平坦面に桁行・梁行ともに3間で、方向を揃えて並んでいる。建物SB1603は総柱建物である。両建物とも倉庫と考えられる。

区画堀 東の谷の西岸部では、谷に沿う掘立柱堀SA1237と、この堀の南端から西斜面につづく堀SA1238を検出した。工房内の区画施設と考えられる。

谷筋には工房廃棄物層である炭層が堆積しており、この中に大量の遺物が含まれていた。このため現場での遺物取り上げは適切でない判断し、土ごと取り上げて水洗選別作業をおこなうことにした。この作業には電動ふるいを使用した。これによって、現場では取り上げられない微小な遺物を回収することが可能となった。この方式はこの後続く調査にもとり入れることになる。

また、時代は異なるが西の谷で江戸時代の梵鐘鑄造土坑を検出した。「飛鳥寺」の銘文のある鑄型があり、飛鳥寺（現 安居院）に残る記録から、延享2年（1745）につくられ、戦前まで架かっていた梵鐘がここで鑄造されたことがわかった。

以上のように、谷の奥まで工房跡が広がることや、倉庫建物・区画堀を検出し、工房の構造についての貴重な資料を得た。また、工房生産について、新たに重要な遺物が出土した。とくに注目された遺物は金、銀である。金粒、金箔、銀片、銀線などがあり、銀を融かした埴塼も確認した。さらに、飛鳥寺1991-1次調査でガラス・ガラス玉の生産を想定したが、今回、ガラス玉が見つかった他、瑪瑙、琥珀、水晶製の玉類が発見された。これにより、高級な宝飾類の生産が西の谷でおこなわれていたことが明らかとなった。

金・銀
宝飾類

万葉文化館展示棟は西の谷に建設が予定されており、その南半の地盤は高いため切土工となる計画であった。このため炉跡群の精査後、東西約15m、南北約27mについて、下層の調査をおこなった。その結果、西の谷の南半部について、工房作業面を築くにあたって谷を埋めため、中央を溝状の廃棄物投棄場とし、その両岸を工房とする造成工事が想定できた。また、造成土下で5世紀後半～6世紀初めの古墳時代の遺構を検出した。竪穴住居跡2棟、南北溝、弧状溝などがある。特に南北溝には土器が立った状態で集中した部分があり、滑石製品が多量に出土した。この他、調査区南半では縄文時代の石器が出土し、この谷の利用状況についての資料を得た。

古墳時代の
遺構

iv 飛鳥藤原第93次調査

飛鳥池北半部と堤防部分を含む調査区で、2本の谷の合流部とその北側部分になる。これに

よりこれまでの調査区が繋がった。この調査では南側の工房遺構の北への広がり、第84次調査区の遺構群との関連を明らかにすることを目的とした。

谷筋は合流部のすぐ北側で最も幅が狭まる。飛鳥池の堤防はここに築かれているが、丁度ほど同じ位置に発掘調査でも掘立柱東西堀3条(SA1150・1151・1152)が検出された。同時存在ではなくつくりかえられたものであるが、この堀を境に、北と南とで堆積土の状況・遺構の様相も異なっていた。こうした状況から、東西堀は単なる工房の区画ではなく、谷の水を堰きとめた施設と考えられた。

三 条 の 堀

3条の東西堀北側には、第84次調査区から続く、方形池SG1100への導水路SD1110、その西の南北堀SA1120・1121、その西側の南北大溝SD1130、導水路SD1110に注ぐ暗渠や南北堀SA1120・1121にとりつく東西堀、石敷井戸SE1160などがある。

導水路SD1110南端部は、3条の東西堀部分で、つくりかえが認められた。石敷井戸SE1160は第84次調査検出の井戸SE1090と類似した構造である。東南隅から石組溝SD1163で東西堀SA1151をくぐり、南の水溜SX1220に水を流す。

3条の堀から南は、谷の両岸に工房跡、谷中央は大きな水溜SX1220・1222となる。2つの水溜をわけ、東西の岸を結ぶのが陸橋SX1221である。水溜の炭層からは富本銭が出土した。

富 本 銭

西岸は後世に大きく削平されているが、一段高い場所に、廃棄物投棄の土坑SK1170があった。これによってこの土坑に入っていた廃棄物を生じた工房跡が、西岸のより高所に存在することが想定できた。

東岸では大きく3時期にわたる工房作業面を確認し、多数の炉跡が密集する状況を検出した。上層・中層では鉄、下層では銅製品が主体であることも判明し、下層の廃棄物層である中層整地土から富本銭が出土した。工房作業面の丘陵側と谷側と北側には区画溝がある。区画溝の内側には小柱穴があり、簡易な屋根架けがされていたと考えられる。

東 岸 工 房 跡

東岸工房跡の北側の斜面で瓦窯SY1200が見つかった。窖窯の焚口部の一部と燃焼部が残る。飛鳥寺東南禅院所用瓦を焼成した窯である。窯の築かれた整地土面と工房跡との関係から、瓦窯は下層工房より新しく、中層と共存する。このことから富本銭製造は瓦窯以前と考えられた。東南禅院は少なくとも文武4年(700)の道昭没年時点ではほぼ完成していたと思われるから、富本銭製造も700年を遡ることになる。

瓦 窯

また、谷中央の水溜は貯水・浄化用と考えられ、いったん沈殿された工房からの排水・雨水の余水が導水路である南北溝SD1110を流れて方形池SG1100に注ぎ、再度沈殿されて東側に排水されるという污水处理施設として理解するに至った。

以上のように第93次調査は遺跡全体の構造を解明する上で重要な成果をあげた。特に、遺跡を南北にわける3条の東西堀を検出したことにより、北側の遺構と南側の遺構との相異を理解することができた。また東岸の工房跡や瓦窯の発見と富本銭の出土は、大きな注目を集めることとなり、遺跡の重要性が広く認識されるに至った。

v 飛鳥藤原第97次調査

第84次調査の結果、擁壁工事のおこなわれる敷地北辺に飛鳥寺南辺外郭施設が想定されることから実施した。遺憾ながら一部工事が先行した。調査区は第84次調査区の北に接する。

飛鳥寺南面
大 垣

第84次調査で検出した東西道路SF1070の北で、飛鳥寺南面大垣である掘立柱塀SA1060を検出した。大垣は柱をたてた後に土を積んで基壇をつくり、南辺に玉石を据えて縁石としていた。出土瓦からみて7世紀第4四半期に比定できる。大垣基壇縁石から道路の南側溝SD1080北肩間は約9.5mとなる。大垣の南には東西幅約8.1mの石敷SX1065があり、大垣に開く門に伴う施設の可能性がある。また、道路SF1070の下層で、第84次調査検出の東西溝2条（SD1071・1072）と新たな南北大溝SD1066を検出した。南北大溝SD1066は谷の東縁に沿って掘られたもので、東西溝SD1072はこれに接続する。

この調査は小面積ではあったが、飛鳥寺南面外郭施設について大きな成果をあげた。

vi 飛鳥藤原第98次・第99-6次調査

第93次調査で、管理研究棟予定地にかかる東の谷東岸に、工房跡が良好な状態で残っており、さらに富本銭の鑄造がおこなわれていることが推定された。このような調査成果により、遺跡の保存を求める運動が高まる中で、管理研究棟予定地の調査として第98次調査をおこなうこととなった。調査区は第93次調査区の南で、西側は飛鳥寺1991-1次調査区・第87次調査区と接続する。この調査では、東の谷東岸の工房跡の広がり、富本銭鑄造に関わる遺構の発見や東の谷の汚水処理施設の解明を目的とした。

谷東岸では、第93次調査で明らかとなった工房跡の南端を検出し、工房作業面の規模が南北約30m、幅約9mであることがわかった。この工房の南側にも炉跡が分布する。小型の炉の他に、長辺約1m、短辺約0.7mほどの大型炉があり、土製道具の焼成炉あるいは炭窯などの可能性が考えられる。工房跡と丘陵裾との間には掘立柱塀SA1236がある。塀SA1236の南端にはSA1235がとりつき、陸橋SX1232上で谷をわたり、第87次調査で検出した、東岸の塀SA1237と接続する。そして、さらに南側の丘陵上にのびる塀SA1238と結ばれる。この塀はSA1236から東へは延びないことを、後におこなった第99-6次調査で確認した。

区 画 塀

第93次調査区からつづいて、谷筋からその両岸にかけては工房の廃棄物層である炭層が堆積しているが、その範囲は3条の東西塀から3つ目の水溜SX1224までである。陸橋SX1225の東端付近で、富本銭鑄造時の廃棄物を一括投棄した土坑2ヵ所（SK1240・1241）を検出し、この中からついに富本銭鑄型が出土した。富本銭の鑄造がこの場所でおこなわれていたことが確定した。谷筋には新たに水溜5ヵ所を検出した。第93次調査と合わせると、3条の塀から7つの水溜が棚田状に造成されており、さらに上流へ続くこととなった。水溜をわたる陸橋は、調査区内で最も上流部分で約2mずれて造り直しが認められ（SX1232・1233）、新しいものにも改修がある。他の2つの陸橋にも改修がみられた。

富本銭鑄型

以上のように、工房の汚水処理システムの様子が、一層明らかとなるとともに、東岸の工房跡の規模、構造や、富本銭の鑄造が明らかとなり、遺跡の解明にとって重要な資料を得ることができた。こうした調査結果から、管理研究棟の建設位置が変更され、それに伴い、工房区画塀SA1235の延長部の確認を目的とした第99-6次調査をおこなって、1997年1月からはじまった事前調査は終了した。

B 飛鳥池東方遺跡

i 飛鳥藤原第86次・第92次調査

万葉文化館建設予定地の東半で、建物外構の盛土造成、農業用水路付け替えが計画されていた地区である。飛鳥池の谷のひとつ東側で、飛鳥池東岸の丘陵と飛鳥坐神社南の丘陵に挟まれた谷筋にあたる。第86次調査と第92次調査と2回の調査をおこなったが、主要な調査区が隣接することから、ここでは両次数をまとめて調査の概要を記すこととする。

飛鳥池東側の丘陵東裾には農業用水路が整備され、北側は水路の東側が、南側は水路が東に振れるために、その両側が水田となっていた。第86次調査では北側の水路東側に8カ所、第92次調査は第86次調査区の補足的な5カ所の調査区と、南側の水路東側に5カ所、計10カ所の小規模調査区を設けた。飛鳥池遺跡に隣接する谷筋の利用状況を把握することが主な目的である。

飛鳥池側の丘陵寄りに、7世紀中頃に整備・改修したとみられる流路SD1700を検出した。調査地の中で、上流部は、第92次調査のD区とE区の間を流れていたと考えられる。中流部は第92次G区で東岸を検出し、流路幅は6～7mと推定される。下流部の第86次8区・第92次I区では7世紀中頃以降、平安時代に至るまでに、流路がしだいに西へ移っていく状況を確認した。

7世紀中頃
からの流路

この流路の東側は緩傾斜の平地が東丘陵裾までのびており、掘立柱建物、掘立柱塀などを検出した。廂をもつ比較的規模の大きい建物SB1721や、5時期にわたる塀などがあり、いずれも流路方向とそれに直交する方向をもつ。

流路SD1700については日本書紀にみえる「狂心渠」との関連が注目される。また、出土遺物の中には工房関係のものが少量あり、土器で飛鳥池遺跡と接合するものもある他、飛鳥寺創建期の瓦も出土しており、この遺跡の性格については今後の大きな課題である。

C 飛鳥池遺跡範囲確認調査

遺跡の史跡指定のための資料を得るため、工房関連遺構の広がりを把握することを目的とした調査を2回おこなった。調査の性格から、遺構の掘り下げは最小限にとどめた。

i 飛鳥藤原第106次調査

西の谷の西・南斜面及び2つの谷をわける南の丘陵部を対象とした調査である。西斜面には2カ所の調査区を設けた。両調査区において、工房作業面と炉跡を確認し、西斜面が何段にも平坦面が造成されて工房が営まれていることが判明した。また、工房の西の区画施設の可能性がある塀を検出した。南斜面では第87次調査区に連続する調査区を設け、谷の最も奥で検出していた工房の様子が明らかとなった。南斜面を切りおとして平坦な工房作業面をつくり、山側に排水溝をめぐらしている。また、この工房の南斜面上部にも作業面の可能性が推定された。

炉跡

この調査で、工房遺構が西の谷の西及び南斜面へさらに展開することが明らかとなった。

ii 飛鳥藤原第112次調査

東の谷の工房の南へのひろがりを探る調査である。調査地は、第98次調査区から約50m南の地点で、健民グラウンドとして造成されていた場所である。谷の東斜面と谷筋を検出することができた。丘陵斜面には上下2段の平坦面がある。古墳時代頃に造成されたとみられる上段の平坦面で1基、下段の平坦面で2基の炉跡を検出した。いずれも飛鳥池遺跡のものと共通した構造をもつ。下段の工房作業面及び谷側斜面の炭・焼土の堆積土からは7世紀後半の遺物が出土した。谷部分には平安時代の土器を含む上下2層の腐植土層が堆積し、沼状もしくは湿地が形成されていたことがわかった。

この調査により、東の谷の工房跡は南北130m以上の広がりをもつことが明らかとなった。同時に、この谷の最も奥に営まれた酒船石遺跡の遺構群との関係が重要な問題となってきた。

D その他の調査

1998年に万葉文化館敷地内の4カ所で立会調査をおこなった (Tab. 4)。

Tab. 4 立会調査一覧

調査回数	遺 跡	地 区	調査期間	面積	担当者
飛鳥藤原第91-6次	飛鳥池東方遺跡	5AKA-A・B	1998. 6. 18~29	111㎡	長尾 充
飛鳥藤原第91-13次	飛鳥池東方遺跡	5AKA-B	1998. 11. 17	5㎡	田福 涼
飛鳥藤原第91-14次	飛鳥池遺跡 飛鳥池東方遺跡	5BAS-M	1998. 11. 19	34.5㎡	長尾 充
飛鳥藤原第91-17次	飛鳥寺	5BAS-M	1998. 10. 21	5㎡	小澤 毅

第91-6次調査は、水路付け替え工事に伴う排水管理設工の立会調査である。北区は第92次E区の北東隅にかかる幅3m×長さ15mで、E区の整地土下の流路堆積、調査区北側で地山面を確認した。南区は、第92次B区の西約6mで幅3m×長さ20mの調査区である。全体が流路SD1700の堆積土であることを確認した。

第91-13次調査は、飛鳥池東の丘陵の東斜面にあたる健民グラウンド敷地内で、立木移植に伴いおこなった立会調査で、地山面を確認した。

第91-14次調査は、第84次調査区の東北隣接地である。水路西側の排水管理設工事部分では第84次調査区につづく遺構面、水路東側の外周水路工事部分で流路SD1700の堆積土を確認した。

第91-17次調査は、第84次調査区の北で擁壁工事が先行したため、緊急に調査を実施し、遺構の確認をおこなった。

3 調査成果の公表

飛鳥池遺跡は、1991年に発見された当初から、極めて稀な古代生産遺跡として注目され、1997年からはじまった継続的な調査ではその重要性が調査をおこなうにつれ高まった。こうした状況から研究所出版物での概要報告とは別に、発掘時点での遺構・出土遺物についての重要な成果について、できるだけ早く公表できるよう努めた。これまでに報道発表15回、現地説明会（見学会を含む）6回、遺物展示会2回をおこなった（Tab.5）。現地説明会・遺物展示会への参加者数は延べ約13,500人にのぼった。この他、飛鳥資料館の特別展示（1992年、2000年）、奈良文化財研究所創立50周年記念『飛鳥・藤原京展』（2002年度）での公開をおこなった。また、海外を含め各地でおこなわれる展示会や研究所外の出版物への資料提供などについても積極的に対応している。

Tab. 5 報道発表・現地説明会等一覧

年月日	事業名	内 容
1991. 8.28	報道発表	飛鳥寺1991-1次調査（飛鳥池の調査）
1997. 4.24	報道発表	飛鳥藤原第84次（万葉ミュージアム）調査
4.27	現地説明会	〃
7.24	報道発表	飛鳥藤原第84次（万葉ミュージアム建設予定地）調査
7.29～31	現地見学会	〃
8.29	報道発表	飛鳥藤原第84次（万葉ミュージアム建設予定地）石敷井戸
9. 1・2	現地見学会	〃
10. 2	報道発表	飛鳥藤原第84次調査出土石敷井戸の井戸枠について
10. 7	報道発表	飛鳥藤原第84次調査出土木簡について
1998. 3. 2	報道発表	飛鳥池遺跡出土木簡について
4.15	報道発表	飛鳥池遺跡検出の梵鐘铸造遺構について
4.23	報道発表	飛鳥池遺跡（飛鳥藤原第87次調査）
4.26	現地説明会	〃
9. 4	報道発表	飛鳥藤原第84次調査出土木簡について（その3）
9.29	報道発表	飛鳥池遺跡出土の金・銀
10. 7～30	遺物展示会	〃
10.15	報道発表	飛鳥池遺跡（飛鳥藤原第93次調査）
10.18	現地説明会	〃
12.22	報道発表	飛鳥池瓦窯の発見とその意義
1999. 1.19	報道発表	飛鳥池遺跡出土の富本銭
1.25～2.10	遺物展示会	〃
7.23	報道発表	飛鳥池遺跡の調査（飛鳥藤原第98次調査）
7.25	現地説明会	〃

4 調査日誌抄

i 飛鳥寺1991-1次調査 1991年4月5日～8月9日

- 4.5 調査区設定。
 4.8 西側丘陵東斜面の磁気探査。
 4.9 東南から池底堆積層の青灰砂質土除去。南東隅は地山出るが、西側は炭・灰混の谷堆積土上面となる。
 4.10 池底堆積層の灰色粘土除去。
 4.11 南から池底堆積層の灰色粘土除去。南西隅では地山出る。
 4.12 池底堆積層の灰色粘土除去。
 4.15 調査区北側の灰色粘土除去。谷地形の西肩の検出。
 4.16 調査区北端から遺構検出。谷落ち込み西肩、整地土と地山との境検出。落ち込みの掘り下げ開始。
 4.17 谷の東の青灰砂質土、西の灰色粘砂を掘り下げる。青灰砂質土が上層。
 4.18 谷落ち込みより西方の遺構検出。
 4.19 谷落ち込み付近の遺構検出。
 4.22 調査区南半の遺構検出。北東方向の谷状凹みの輪郭を出す。谷西側で柱穴検出。谷中央部には炭層が堆積する。谷の東肩付近に炉跡検出。
 4.23 南辺の谷状落ち込みの掘り下げ。鞆羽口・鉾津、土馬出土。平安時代遺物を含む。10世紀の堆積か。中央部炭層部分の掘り下げ、厚いところで60cmくらいある。
 4.24 南辺の遺構検出。
 4.25 南辺の遺構検出。炭層掘り下げ。WI29から漆布出土。
 4.26 南西壁面実測。炭層掘り下げ。
 4.30 重機にて東側に大きく拡張を始める。炭層は北東方向にのびる。調査区北部の谷部分、灰色粘砂の掘り下げ。
 5.1 調査区北側の谷部分の調査。灰色粘砂、その下層の炭混暗灰砂質土の掘り下げ。拡張区は南から暗灰砂をとる。
 5.2 調査区北側の調査。西岸の炭混暗灰砂質土下の整地土上にうすく堆積する淡褐色砂層上で、弧状の溝2条(SD803・SD804)検出。重機による拡張は本日です。
 5.7 北部、弧状溝内側での遺構検出、柱穴あり。建物(SB805)となるか。南部は炭層上面を出す作業。
 5.8 北部、弧状溝内部の遺構検出。

- 5.9 北端部拡張部分、炭溜上面で溝の延長検出。南で東へ曲るか。東部は、灰色粘土をはずし、炭混灰褐土(北端の灰色粘砂に対応か)をとり、炭層上面・地山面を出す。
 5.10 北端部遺構掘り下げ。東部あまり顕著な遺構なし。
 5.13 炭層上の炭混灰粘土をとり、炭層上面を出す。北端部の建物SB805、写真撮影に備え清掃。
 5.14 北端部の写真撮影。炭層状況写真撮影。
 5.16 北端部の実測。炭層掘り下げ開始。東北部の炭層落ち込み肩部(WI25)から仏像鋳型出土。
 5.17～18 北端部の実測。炭層掘り。
 5.20 調査区中央部(谷部分)、炭層掘り下げ、土色が変わったので炭層Ⅱでとりあげ。北端部の実測を終了し、下層の調査に入る。
 5.21 炭層Ⅱ掘り下げ。
 5.22 炭層Ⅱ掘り下げ。炭層Ⅱよりさらに黒色部分を炭層Ⅲとして掘り下げ。炭層Ⅱからガラス埴塼出土。北端部建物内、整地土掘り下げ。建物内の柱穴の検出。
 5.23 炭層掘り下げ。北端部、下層調査。
 5.27 炭層掘り下げ。27ライン以西はぼ了。
 5.28 炭層掘り下げ。北端部下層、灰色シルト掘り下げ。
 5.29 炭層周辺遺構検出。南西部の上層遺構の断ち割り。北端部柱穴の断ち割り。
 5.30 北端部柱穴断ち割り。

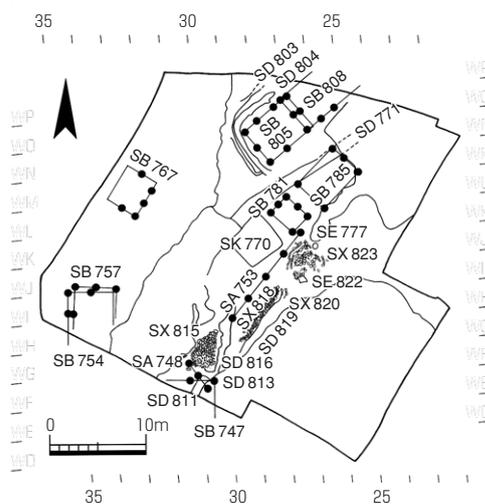


Fig. 7 飛鳥寺1991-1次調査区 1:800

- 5.31 南辺、谷の東側で石敷（SX815）が顔を出す。
- 6.1 石敷SX815検出。南西部上層遺構精査。
- 6.3 石敷SX815検出。石敷南辺と東辺に溝あり（SD813・SD816）。
- 6.6 北端部下層の調査。灰色シルト下の砂層である灰緑色粘砂の掘り下げ。
- 6.7 北端部下層は灰緑色粘砂掘り下げ。南辺谷部は炭混粘土層掘り下げ。北と南で各々大きな穴状の溜をなしている。谷東辺の炉跡など実測、掘り下げ。WG31炭入土坑の掘り下げ。
- 6.10 南辺谷部の粘土混炭層掘り下げ。谷東辺WG31・WH30の炭入土坑掘り下げ。谷西辺は整地土上で土坑、溝検出。WJ28周辺の大土坑掘り下げ。
- 6.11 南辺谷部、粘土混炭層（下層）掘り下げ。南辺の炭入土坑掘り下げ。石敷SX815部分は南へ30cm広げる。見切りの列石から南には石なし。WJ28周辺大土坑掘り下げ。WI32粘土混炭層下に粗炭の溜があり、とりあげる。調査区北部、整地土を下げた遺構検出。
- 6.12 南辺谷部、粘土混炭層（下層）掘り下げ。WJ28大土坑は一辺4.5mの方形となる（SK770）。WJ26で曲物検出、井戸か（SE777）。
- 6.13 谷部断面図作成。
- 6.14～15 大土坑SK770の掘り下げ。
- 6.17 南辺谷部、粘土混炭層（下層）掘り下げ。谷東辺では石敷SX815北方、整地土下で地山の落ち込みに平行して走る、幅40～50cmの帯状石敷（SX818）あり。
- 6.18 大土坑SK770掘り下げ。石敷SX818の検出。東側の削り込んだ地山斜面との間に浅い溝（SD819）がある。
- 6.19 谷東辺の調査。大土坑SK770掘り下げ。WI27炭層下の炭混灰砂掘り下げ。WI26炭混灰砂下の木屑溜から付札木簡出土。WI26・WJ26炭混灰砂下の黒灰粘土をとると石敷（SX823）出現。
- 6.21 井戸SE777完掘。曲物一段、底板なし。
- 6.24 南西辺斜面崩落。

- 6.25 石敷SX815周辺の精査。
- 6.29 北東部分を拡張する。
- 7.2 拡張区池底堆積の灰色粘砂をとる。
- 7.3 拡張区炭混暗灰粘質土を掘り下げ、淡緑色ブロック混り砂質土（整地土）と東の炭層の検出。炭層は炭が多量、遺物も多そう。
- 7.6・8 南西辺斜面地すべり対応、土どめ杭打ち。
- 7.9 南辺部、写真撮影と実測。拡張区、炭層から銅製人形出土。
- 7.10 南辺部実測。拡張区炭層の下の方は炭粒大きくガサガサなので「粗炭層」とする。拡張区中央部分の北東方向の溝SD771掘り下げ。谷東辺の炉跡掘り下げ。炭層から木製鏃形（様）出土。
- 7.11～16 拡張区、粗炭層掘り下げ。
- 7.17 拡張区、粗炭層掘り下げ。南辺では黄褐整地土をはずして、石敷SX815の広がりを調査。石敷SX815の南に南北溝（SD811）がある。
- 7.18 南辺、石敷SX815周辺の調査。WH区には石がなく一段下がつて終る。東辺の溝SD816もこのあたりまでを検出。拡張区、粗炭層の掘り下げ。
- 7.19 石敷SX818東側の溝SD819の北端には石組（SX820）が残る。拡張区、粗炭層・粗炭層②の掘り下げ。
- 7.22 清掃。
- 7.23 清掃。北東部一部拡張。
- 7.24 清掃。
- 7.25 写真撮影。空撮。拡張部分の調査。
- 7.26 拡張部分の掘り下げ。
- 7.31 拡張区終了。
- 8.1 27ラインアゼの土層はぎとり。柱穴断ち割り。
- 8.2 柱穴、曲物井戸SE777、炉断ち割り。
- 8.5 炉、土坑などの断ち割り。
- 8.6 柱穴、土坑などの断ち割りと実測。
- 8.7 炉のとりあげ。
- 8.8 炉跡精査。井戸SE822の掘り下げ。
- 8.9 炉のとりあげ、断面はぎとり。井戸SE822精査。調査終了。



Fig. 8 ラジコンヘリコプターによる撮影



Fig. 9 炉のとりあげ

ii 飛鳥藤原第84次調査 1997年1月8日～12月3日

1.8 調査区設定。

1.9～20 重機掘削。

1.23～2.16 北側から南へ向かい遺物包含層掘り下げ。整地土上面で小溝の検出。西辺では地山が顔を出す。何ヶ所かで柱穴検出。

2.17 南から北へ遺構検出。調査区南端で、土層状況を見るためトレンチを入れる。谷状の地形判明。東方は淡灰褐粘質土の上に堆積する褐灰土をはずして黒灰土の谷の肩を出す。

2.18 東方、淡灰褐粘質土を出して谷の東肩を検出。西方、黒灰土の上の整地土で遺構検出。

2.19 東方で柱穴、井戸と考えられる大穴 (SK 1153) 検出。西半では小穴多数。土坑には炭化物・銹滓を含むものがある。

2.20 中央部分の暗褐土をはずす。東方は柱穴さがし。

2.21 東方、井戸 (SK1153) 周辺の柱穴さがし。これより北側では淡灰褐粘質土が明確でなくなる。

2.24 調査区中央部の中世大土坑掘り下げ。

2.25 1979年検出の飛鳥寺南限塀の延長線上を精査するが柱穴なし。南限塀はまっすぐには延びていないことになる。

2.26 西辺北寄りに楕円形の大土坑 (SE1090) 検出。中に石組をもつ。東西溝 (SD1127) がこの大土坑の上を横切る。

2.27 東西溝SD1127掘り下げ。新旧2時期ある。石組遺構 (SE1090) は長方形で、東西5m・南北7m程。

2.28 東西溝SD1127の西端部掘り下げ、中世遺物出土。

3.3 調査区中央部、中世東西溝SD1127北側で東西の柱列検出。石組遺構 (SE1090) から北へのびる溝があるらしい。

3.4 石組遺構北方に東西石組があり、幅約70cmの東西溝らしい (SD1080)。溝の北側はバラス敷き。調査区中央部、柱穴の検出。

3.5 中央部、柱穴検出作業。

3.6 中央部、柱穴検出作業。東西柱列の穴には人頭大の石が入る。

3.7 中央部で南北方向の柱列 (SA1140) 検出。埋土に黄褐色の山土が入る。石組遺構 (SE1090) 南側の掘り下げ。

3.10 北辺は幅1mあまり瓦集中。飛鳥寺寺城南限との関連か。

3.11 空撮 (第1回)。

3.12 写真撮影。

3.13 調査区西北部分の遺構検出。土層観察で判明した瓦敷面の上の茶灰土を掘り下げ。銅鏡片出土。

3.14 調査区西北部分の調査。西北端の瓦敷の南

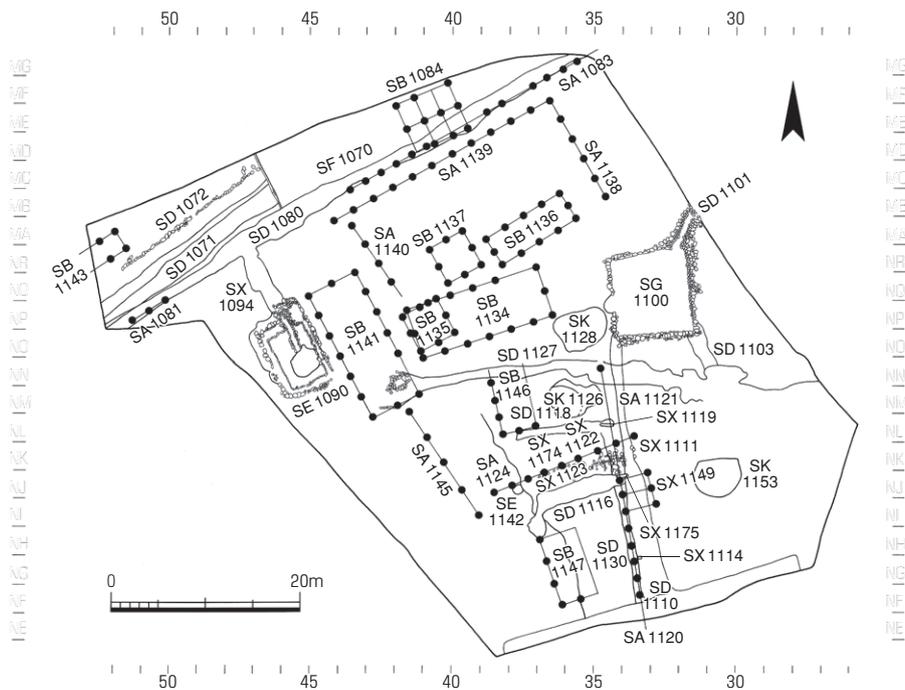


Fig. 10 第84次調査区 1:800

は東西方向の溝状となる。バラス敷南側の東西溝SD1080掘り下げ。バラス敷部分は道路か（SF1070）。

3.17 東西溝SD1080は東にのびる。西北部に、南に面をもつ石列（SD1072北岸）検出。瓦敷、バラス敷のベースとなる土に埋まっている。

3.18 東西溝SD1080完掘。MD43土坑掘り下げ。

3.19 東西溝SD1080西端で柱穴3ヶ所検出（SA1081）。溝は新旧があり、柱穴はその間の時期。

3.21 東西溝SD1080南に柱列（SA1139）検出。石組遺構（SE1090）掘り下げ。

3.24 東西柱列SA1139の西への延長をさがすがのびない。

3.25 石組遺構（SE1090）から北への溝状部分を掘り下げ、石組暗渠（SX1094）検出。石組遺構（SE1090）掘り下げ。

3.26 石組遺構（SE1090）の調査。石組の壁際に周溝をまわし、中央が石敷となる。中世東西溝SD1127掘り下げ。

3.27 石組遺構（SE1090）の調査。調査区中央部の柱穴群の精査。

3.28 石組遺構（SE1090）平面実測。調査区中央部から東側の柱穴群の精査。

3.31 石組遺構（SE1090）の調査。石敷中央は南北溝となっている。北東部の出っばりの東半は階段。中央部分には楕円形に石敷が抜けており、人頭大の石がほうり込まれている。井戸枠採取穴であろう。調査区東半、柱穴群の精査。

4.1 石敷井戸SE1090の調査。井戸枠採取穴掘り下げ。調査区東半、柱穴群周辺の調査。

4.2 調査区東半、柱穴群周辺の調査。東辺部の東西棟建物まとまる（SB1136）。

4.4 石敷井戸SE1090東側の柱列は南北棟建物となる（SB1141）。中世東西溝SD1127溝底掘り。

4.7 中世東西溝SD1127掘り下げ。

4.8 石敷井戸SE1090東側の建物SB1141は、南北5間まで確認。中世東西溝SD1127以南の遺構検出。

4.9 調査区南半部の調査。東南隅井戸（SK1153）の掘り下げ。井戸西側に柱穴検出。

4.10 東南部の柱穴は南北棟建物に考えるか。西南の柱穴は南北棟建物と考えられる（SB1147）。

4.11 空撮。写真撮影。

4.14 写真撮影。東辺拡張。

4.15 石敷井戸SE1090写真撮影。調査区南端から再度遺構検出。中央部、茶褐色掘り下げ。西部、整地土面での遺構検出。

4.16 調査区北半、柱穴精査。東西溝SD1080・石組暗渠SX1094・石敷井戸SE1090などの実測開始。南半、遺構検出。南端西部、整地土である黄褐色を掘り下げ。

4.17・18 調査区北半、柱穴精査。南半、遺構検出。西側の整地土状況の把握につとめる。

4.21～23 調査区南半、遺構検出。中世東西溝SD1127までいきつく。

4.24 報道発表（第1回）。調査区南半、遺構検出。中世東西溝SD1127から南へ折り返し。中央部で炭混大土坑検出（SK1126上部）。西部、黄褐色掘り下げて遺構検出。

4.25 現地説明会準備。調査区南半の遺構検出。石敷井戸SE1090東側の南北棟建物SB1141は、もう1間南へのびて、6間となる。中央部、炭混大土坑掘り下げ。南北柱列検出（SB1146の西側柱列）。

4.27 現地説明会。520人参加。

4.28 現地説明会あとかたづけ。

4.30 調査区南半、遺構検出。

5.1 調査区南半、遺構検出。東辺の井戸（SK1153）の抜き取り掘り下げ。灰色砂土の下は木屑層。その下に別の木屑層があり、掘形とした部分に広がる。井戸ではなく土坑か。

5.2 調査区南半、遺構検出。井戸（SK1153）掘り下げ。木屑層から木簡出土。

5.6 調査区南半、遺構検出。井戸（SK1153）掘り下げ。

5.7 調査区南半、遺構検出。東辺の井戸としてきた遺構（SK1153）は土坑と確定。北半の掘り下げ終了。

5.8 調査区南半、遺構検出。土坑SK1153南半掘り下げ。土壌サンプル採取。

5.9 調査区南半、遺構検出。土坑SK1153掘り下



Fig. 11 現地説明会



Fig. 12 現地説明会

げ。中央・西部で柱穴検出。

5.12 調査区南半、遺構検出。土坑SK1153掘り下げ。南辺から北に向かって遺構精査。

5.13 調査区南半、遺構検出。土坑SK1153掘り下げ。西辺部分の磁気探査を行う。

5.19 調査区南半、遺構検出。

5.20 調査区南半、遺構検出。NK40から北西へ大きい柱穴列検出。NL34で木樋(SX1119)検出。

5.21 調査区南半、遺構検出。西側の大きい柱穴列は、建物にならず塀のようである(SA1145)。土坑SK1153掘り下げ。

5.23 南半部の写真撮影。

5.26 中世東西溝SD1127以北の再度の遺構検出にかかると。東側発掘区開始(東区)。

5.27 調査区北半の調査。中央部分の柱穴検出作業。東区床土除去。

5.28 調査区北半中央部で、6間×2間の東西棟建物まとまる(SB1134)。この建物の西に別の建物が重なる。

5.29 調査区北半中央部、東西棟建物SB1134の西に重複する建物は2間×2間か(SB1135)。東区、床土除去。

5.30 東区、床土除去。

6.2 東区、床土除去。

6.3~5 東区、北半の掘り下げ。

6.9~10 東区、灰褐土掘り下げ。

6.11 東区、北部に南北柱列(SA1138)検出。中央部に石組溝らしき遺構あり。

6.12 東区、南端から折り返し。北側、東西溝SD1080の続きを検出。

6.13 東区、北端の東西溝SD1080南肩に柱列(SA1083)検出。SD1080より新しい。南半中央部は、西側で検出していた大きな落ち込みの続きを検出。東端の大土坑掘り下げ。南の中世溝掘り下げ。

6.16 東西溝SD1080以北の調査。東西溝SD1080の掘り残し部分の掘り下げ。南肩に塀SA1083の柱穴続く。東区中央、柱穴の検出。

6.17 調査区北辺、東西溝SD1080掘り下げ。東区、中央部柱穴の検出。

6.18 調査区北辺、東西溝SD1080南肩の柱穴を南側柱とする南北棟建物(SB1084)を検出。SD1080より古い。東西溝の北約3mに、古い東西溝(SD1071)があるらしい。東区、中央部で南北石列の検出。

6.19 調査区北辺、西の瓦敷はずし。東区、中世東西溝SD1127掘り下げ。

6.24 調査区北辺、瓦敷の下層掘り下げ。東区、中世東西溝SD1127の掘り下げほぼ了。

6.25 調査区北辺西端で、東西溝SD1080中・下層掘り下げ。石組暗渠SX1094の東西溝SD1080へ

の出口部分掘り下げ。瓦敷下で柱穴(SB1143南側柱列)検出。東区、写真撮影。

6.26 調査区北辺、東西溝SD1080北の東西溝SD1071を西端と東側で掘り下げ。東側の南北棟建物SB1084は西庇をもつ。

6.27 空撮(第2回)。調査区北辺の写真撮影。東西溝SD1071掘り下げ。

6.30 調査区北辺西側、東西溝SD1071掘り下げ。東区、平安時代とみられる大土坑掘り下げ。この下に石組方形池(SG1100)があるらしい。

7.1 調査区北辺、東西溝SD1071掘り下げ。東区、方形池SG1100周辺の調査。平安時代大土坑南側の南北溝(SD1103)掘り下げ。

7.2 調査区北辺、東西溝SD1071・石列(SD1072北岸)調査。東区、南北溝SD1103は木屑が多い。奈良時代の土器出土。

7.3 調査区北辺、東西溝SD1071調査。北側の石列を追う。東区、南北溝SD1103から人形・ものさしなど出土。

7.4 調査区北辺、東西溝SD1071の掘り下げほぼ了。この北の石列(SD1072北岸)は東につづく。東区、方形池SG1100埋土の掘り下げ。南北溝SD1103はSG1100がこわされてのち、この窪みに注ぐ溝か。SG1100北東隅から北東方向への石組排水路(SD1101)あり。

7.7 東区、方形池SG1100上層の灰緑砂質土掘り下げ。調査区北辺、東西溝SD1071掘り下げ。石組東西溝SD1072掘り下げ。東西溝SD1080との間は3本の溝があるか。北から南に新しくなる。

7.8 調査区北辺、下層東西溝部分の写真撮影。東半の柱穴断ち割り。東区、方形池SG1100の灰緑砂質土・暗灰土掘り下げ。

7.9 方形池SG1100、灰緑砂質土・暗灰土掘り下げ。土壌サンプル採取。

7.10 方形池SG1100、灰緑砂質土・暗灰土掘り下げ。中世東西溝SD1127掘り下げ。

7.11 方形池SG1100、暗灰土掘り下げ。南北溝SD1103で鍔棒出土、銭用か。中世東西溝SD1127掘り下げ。

7.15 方形池SG1100、暗灰土掘り下げ。

7.16 方形池SG1100、灰粗砂掘り下げ。

7.17 方形池SG1100、東南部の緑灰土掘り下げ、西半は緑灰土の上の褐色土掘り下げ。

7.18 方形池SG1100、西半の緑灰土掘り下げ。

7.22・23 方形池SG1100、掘り下げ。調査区北辺の遺構実測。

7.24 報道発表(第2回)。石組排水路SD1101掘り下げ。

7.25 方形池SG1100、底の一部残し、掘り下げ終える。

7.26 現地説明会予定だったが、台風のため中止。

7/29～31を見学会とする。

7.29 方形池SG1100掘り下げ部分 南側に幅50cm拡張。南辺は大土坑で石が歯抜けになっている。

7.30・31 方形池SG1100南辺部分の調査。

8.1・4 方形池SG1100石積掘方の検出作業。

8.6 調査区南辺部分の柱穴・土坑の断ち割り。

8.8 方形池SG1100周辺の清掃。

8.11～12 方形池SG1100、写真撮影。

8.18 方形池SG1100の精査。石敷井戸SE1090の精査開始。MC33の古墳時代遺物出土地点周辺の精査。

8.19 石敷井戸SE1090の調査。方形の井戸枠残る。東区の土坑断ち割り。

8.20～22 石敷井戸SE1090の調査。井戸枠は2段構成。下段は円形桶状、この上に上段方形枠の土居桁を組む。東区の柱穴・土坑の断ち割り。

8.23 東区の柱穴・土坑の断ち割り。

8.25 石組排水路SD1101掘方（東側）の検出。石敷井戸SE1090、井戸枠内の掘り下げ。暗渠SX1094入口部分掘り下げ。調査区南半の遺構断ち割り。

8.26 方形池SG1100東側の遺構精査。調査区南半の遺構精査。

8.27・28 石敷井戸SE1090、井戸枠内の掘り下げ。釣瓶と思われる木箱出土。写真撮影。調査区南半の柱穴断ち割り。

8.29 石敷井戸SE1090の報道発表。方形池SG1100実測。調査区南半の遺構精査。

9.1 方形池SG1100周辺部と調査区南半中央部分の実測開始（～6日）。石敷井戸SE1090の現地見学会（～2日）。石組暗渠SX1094入口部分と東西溝SD1080への出口部分の掘り下げ。奈良時代土器出土。

9.2・3 石組暗渠SX1094の掘り下げ。

9.4 石組暗渠SX1094の掘り下げ。石敷井戸SE1090上部井戸枠とりあげ、西壁の材に墨画・墨書あり。

9.5 石敷井戸SE1090、土居桁とりあげ。

9.9 調査区南半柱穴断ち割り。

9.10・11 方形池SG1100の精査。石敷井戸SE

1090、下段井戸枠の調査。

9.12～17 方形池SG1100の精査。東辺で古い石組を確認。

9.18 方形池SG1100の精査。石敷井戸SE1090、下段井戸枠のとりあげ。

9.19～26 方形池SG1100部分の埋め戻し。

10.2 石敷井戸SE1090の井戸枠について報道発表。

10.6 Mラインに沿って1mのサブトレンチ設定。土層堆積確認作業に入る。

10.7 サブトレンチ内、方形池西南隅の南の位置に南北溝あり、方形池導水路にまちがいない（SD1110）。木屑層から「播磨国宍粟郡三方里」木簡。

10.13 サブトレンチ掘り下げ。土層図作成に入る。29ラインから西に向かい、調査区南半の遺構検出にかかる。

10.14 幅約2mの導水路SD1110検出。北側に一部、石組の護岸がある。この西に粘土積み基底部をもつ南北柱列検出（SA1121）。柱間7～8尺。以前検出していた木樋SX1119は南北堀の下をくぐる。この南にも同様の木樋検出（SX1175）。

10.15 導水路SD1110護岸部分は杭が打ち込まれており、堰らしい（SX1111）。南北堀SA1121の西は炭混土の互層となる。木樋2本には西から注ぐ砂溝（SD1116・SD1118）がとりつく。

10.16 導水路SD1110西側の遺構検出。堰SX1111から西側に続く踏み石列（SX1123）を検出。

10.17～21 調査区西側の遺構検出。

10.22 西側の遺構検出。木樋に連なる東西溝SD1116掘り下げ。上下2層ある。

10.23 東西溝SD1116は3時期あることが判明。北側の東西溝SD1118は2時期あり。東西溝SD1116のベースは飛鳥Ⅳの土器を含み、下層に大きな南北大溝（SD1130）が想定される。南半部で西岸検出、幅6mくらいか。

10.24 導水路SD1110西側の遺構検出。踏み石列SX1123は、堰SX1111近くでは、下層に石敷（SX1122）がある。

10.27 導水路SD1110の掘り下げ。2条の木樋は最上層に注ぐ。導水路SD1110東側の遺構検出。木簡出土の土坑SK1153の西に柱穴を検出。東西



Fig. 13 写真撮影



Fig. 14 調査風景

第Ⅱ章 調 査

棟建物となる（SX1149）。北側中央の土坑南半掘り下げ（SK1126）。

10.28 清掃。導水路SD1110東側遺構検出。

10.29 調査区南半部、写真撮影。

10.30 実測。石組方形池SG1100東南部の遺構掘り下げ。

10.31 北側中央の土坑SK1126掘り下げ。方形池SG1100東南部の遺構掘り下げ。

11.4 導水路SD1110の掘り下げ。西肩に残る土の掘り下げ。堰SX1111以北は流砂の堆積が厚い。下層・溝底から木簡出土。方形池SG1100西側の遺構検出。

11.5 導水路SD1110の掘り下げ。木屑層に大量の木簡。丁丑年（天武6）木簡出土。北側中央の土坑SK1126は北半の掘り下げ。方形池SG1100西側の遺構検出。一辺3m以上の方形土坑がある（SK1128）。東西棟建物SB1134の柱穴より古い。

11.6 導水路SD1110、木屑層掘り下げ了。NG33で西岸に木材が顔を出す。導水路SD1110西側の南北大溝SD1130の掘り下げにかかる。大土坑SK1126の掘り下げ。

11.7 南北塀SA1120のすぐ西で、南北方向の木樋を検出。昨日の導水路西岸の材が開口部とわかる（SX1114）。方形池西側柱穴掘り下げ。導水路

北端部は、土坑の上ののりとの解釈。南北大溝SD1130の掘り下げ。埋立土を除去、腐植土層が出る。方形池西側の建物まともらない。

11.10 南北大溝SD1130腐植土層掘り下げ。木簡多。踏み石周辺の精査。石敷SX1122の西につながる下層踏み石（SX1174）検出。下層は振れが大で石も大。上層踏み石列SX1123の北側に東西塀（SA1124）を検出。南北塀SA1121にとりつく。

11.11 空撮（第3回）。地上写真。

11.12 写真。実測。

11.13 調査区中央西側の柱穴等の精査。南北棟はまとまる（SB1146）。

11.14 南北大溝SD1130から西の遺構精査。中央部の東西塀SA1124まとまる。

11.18 方形土坑SK1128掘り下げ。南北大溝SD1130腐植土層掘り下げ。

11.19 方形土坑SK1128掘り下げ。南北大溝SD1130腐植土層掘り下げ。丁丑年木簡出土。南北大溝SD1130と導水路SD1110は一時同時にひらいていたか。土坑SK1126北半を完掘。

11.30 実測。

12.3 南北塀SA1120の柱穴断ち割り。掘方の上に塀基底部の粘土を積み上げた状況がわかる柱穴がある。埋め戻し開始。

iii 飛鳥藤原第87次調査 1997年11月12日～1998年7月31日

11.12 調査区設定。

11.13～20 重機掘削。

12.4 調査開始。斜面表土かきおとし。谷部の重機掘削。

12.5 斜面表土かきおとし。谷部の重機掘削了。

12.8 西辺から明褐色土掘り下げ。瓦器・青磁出土。

12.9 明褐色土掘り下げ。炭を含む廃棄物層の南西輪郭がみえる。鈹滓が多い。

12.10 谷部、明褐色土掘り下げ。南辺部は炭層を覆う淡褐色砂土を掘り下げ。近世染付を含む。

12.11 明褐色土・淡褐色土掘り下げ。

12.12 明褐色土掘り下げ。調査区南端では炭層東縁みえる。

12.15 調査区北側、明褐色土掘り下げ。南半西側は明褐色土下層の褐色土掘り下げ。南端は淡褐色砂土を掘り下げ、テラス状になった工房跡を検出。焼土数カ所あらわれる。明褐色土が厚いため重機投入。

12.16 谷部掘り下げ。炭層輪郭検出。南丘陵西斜面の調査。

12.17 丘陵西斜面の調査。

12.18 丘陵斜面の調査。西斜面ほぼ了。北から東斜面にかかる。平坦面はあるが工房遺構なし。南端JH35・36の工房跡（SX1680）の検出。

12.19 丘陵斜面の調査。東斜面頂部で柱穴2カ所検出。南端の工房跡は炉が10基以上重複する。北半の重機掘削。

1.8・9 SX1680の調査。

1.13 SX1680の調査。丘陵東側に調査区設定（東区）。重機掘削はじめる。

1.14 東区の重機掘削。

1.19～20 SX1680実測。壁面のシートかけ。

1.21 SX1680精査。谷部分、東側から遺構検出。東区、壁面整形。

1.22 SX1680の精査。焼けた部分が同心円状に変化する部分を炉跡ととらえる。3m四方に十数基密集。東区、壁面土層図作成。

1.23 東区土層図作成。

1.26 SX1680の炉跡群写真撮影、実測開始。谷部分は明褐色土を掘り下げ、炭層の検出。

1.27 北側の谷部炭層の検出。

1.28 炉跡群調査。北側の西岸整地土面で柱穴検出。炭層輪郭検出。

1.29 南丘陵北西斜面の遺構検出。柱穴検出。炉跡群精査。

2.2 炭層範囲の確定。丘陵西斜面の建物は3間×3間の総柱建物（SB1603）となる。この東

にも3間×3間の建物(SB1604)検出。柱筋が一致。炉跡群実測了。

2.3 写真撮影。

2.4 東区、南から北へ遺構検出開始。南端部は地山出る。

2.5 東区、小溝掘り下げ。整地土上には青灰砂質土堆積。ミャンマー研修生参加。

2.6 谷南部で竪穴状遺構(SX1600)検出。東区、青灰砂質土には黒色土器入る。耕作土か。この下の灰茶褐土面を出す。

2.7 竪穴状遺構(SX1600)掘り下げ。埋土に染付入る。近世のものか。東区、青灰砂質土掘り下げ。

2.10 竪穴状遺構(SX1600)の掘り下げ。東区、灰茶褐土と地山との境を出す。灰茶褐土・暗褐炭層の掘り下げ。

2.12・13 竪穴状遺構(SX1600)の調査。東区、灰茶褐土・暗褐炭層の掘り下げ。

2.16 竪穴状遺構(SX1600)の調査。東区、北半部の整地土掘り下げ開始。

2.17 竪穴状遺構(SX1600)掘り下げ。炭窯か。東区、北半の整地土掘り下げ。JO19で整地土を切る柱穴検出。

2.18 竪穴状遺構(SX1600)掘り下げ。東区、整地土掘り下げ。

2.19 竪穴状遺構(SX1600)、菊花文の鋳型・銅滓など出土。谷部は竪穴状遺構(SX1600)から南側の炭層Iの掘り下げ。土嚢で持ち帰る。東区、整地土掘り下げ。

2.23 竪穴状遺構(SX1600)、「飛」の字の鋳型出土、梵鐘製造土坑と判断。南と東の壁際には竹を埋め込んだ溝がある。底面にはムシロ状のものをひいているらしい。SX1600の南側、炭層掘り下げ。東区、整地土面で掘立柱堀検出。谷筋方向(SA1237)とこれに接続する南西方向の堀(SA

1238)がある。南西方向は丘陵斜面で検出している柱穴と一連と考えられる。工房の区画堀か。

2.25 SX1600、底部壁際の溝検出。飛鳥寺住職から、供出された梵鐘についての教示を受ける。Nラインアゼの北側も炭層Iの掘り下げ開始。東区、堀柱穴の精査。

2.26 SX1600の調査。炭層Iの掘り下げ。東区、堀SA1237・SA1238の柱穴掘り下げ。

2.27 SX1600写真撮影。東区、堀SA1237・1238の写真撮影。

3.2 梵鐘製造土坑SX1600写真撮影。周囲の炭層Iの掘り下げ。

3.3 SX1600実測。炭層I掘り下げ、ガラス埴塼・鞆羽口・銅塊など出土。

3.4 SX1600の底面精査。炭層I掘り下げ。JK38・JL38でガラス埴塼・蓋が目立つ。

3.5 SX1600の底面精査。炭層掘り。

3.6 SX1600の底面精査。南北に大小2個の角柱痕跡が対で並ぶ。東北隅にも角柱痕跡がある。

3.9 梵鐘製造土坑SX1600写真撮影。

3.10 炭層Iの掘り下げ。谷中央は厚さ60cm。

3.11 炭層Iの掘り下げ。中央西側では炭層下にテラス状の平坦面がある。工房作業面か。

3.12 炭層Iの掘り下げ。JN39からガラス埴塼集中して出土。

3.13 炭層Iとして掘り下げた土には、若干上層の土を含んでいること判明、そのため「炭層上」と「炭層」に区別する。Nライン付近西側のテラスに炉跡を多数確認。

3.16~18 JM~JQの炭層掘り下げ。

3.19 JP~JQあたりにこれまでの炭層の下位にある炭層があり、これを炭層2でとりあげる。西岸に炉跡検出。

3.23 Qラインアゼの北側、炭層掘り下げ。

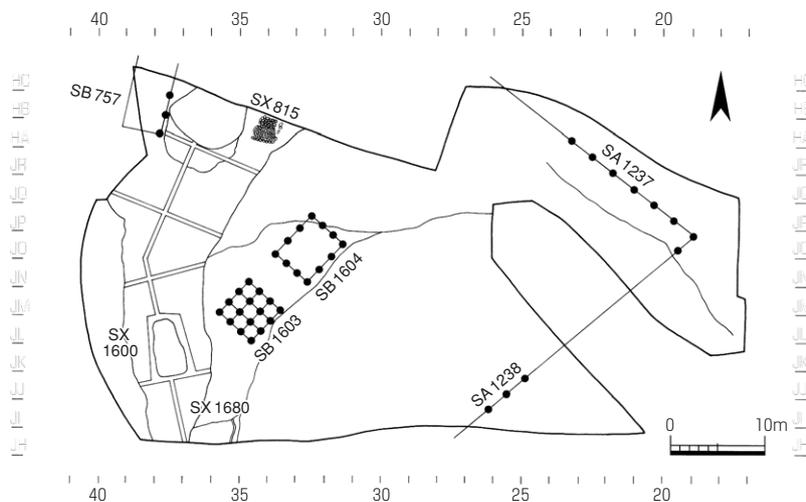


Fig. 15 第87次調査区 1:800

- 3.24 中央部西岸の精査。テラスを埋める土には平安時代土器入る。
- 3.25 中央部精査。西岸テラスの炉跡と焼土の広がり写真撮影。
- 3.26 炉跡群の実測。西側南半の精査。
- 3.30 南側東岸の土坑からガラス玉出土。中央部分の実測。Qラインから北側の炭層掘り下げ。
- 3.31 調査区北側、炭層掘り下げ。清掃。
- 4.2 調査区北側の精査。柱穴、炉跡の検出。
- 4.3 北西隅の柱穴は'91年の柱穴とあわせて3間×2間の南北棟建物になるか(SB757)。南側丘陵斜面の塀SA1238の柱穴もう1ヵ所検出。
- 4.8 建物SB1603・SB1604の柱穴精査。炉跡の調査。空撮に向けて、調査区全体の清掃。(～16日)
- 4.15 梵鐘铸造土坑SX1600の報道発表。
- 4.17 写真撮影。空撮。炉跡分析資料採取。
- 4.20 東区、下層流路(谷堆積土)の掘り下げ開始。整地土をはずす。整地土と堆積土の間に飛鳥Ⅲの土器と砂岩多い。流路堆積土は上面が粘質土、その下が砂と粘土の互層で木簡出土。
- 4.21 東区、流路掘り下げ。調査区北東端に新しい流れがある(上層溝)。
- 4.22 東区、流路掘り下げ。上層溝は北東に向かう。木簡出土。先日の木簡もこの溝からと判明。飛鳥Ⅲの土器、瓦片も出土。しがらみ検出。
- 4.23 報道発表。
- 4.24 現地説明会準備。
- 4.26 現地説明会。890名、2回の説明をする。
- 4.27 東区、流路上層の暗青灰粘土掘り下げ。
- 4.28 梵鐘铸造土坑SX1600付近の炭層はがし、ガラス埴塼出土。東区、流路上層の掘り下げ。
- 4.30 SX1600付近の炭層掘り下げ。東区、塀SA1237・SA1238の柱穴断ち割り。
- 5.1 東区、塀SA1237・SA1238の柱穴断ち割り。
- 5.6 東区写真。明日香小学校6年生見学。
- 5.7 建物SB1604の柱穴断ち割り。
- 5.8 建物SB1603・SB1604の柱穴断ち割り。
- 5.11 東区、流路の断ち割り。
- 5.12 東区、流路の断ち割り。東南端部分を掘り下げ、上層溝のしがらみの続きを出す。

- 5.13 SX1600北側のアゼははずし。東区、土層図作成。
- 5.14 Nラインアゼをはずす。東区、東南端部流路の断ち割り。
- 5.15 アゼははずし、建物SB1603の柱穴断ち割り。東区、流路写真、実測終了。
- 5.19 アゼははずし。
- 5.20 建物SB1603の柱穴断ち割り。山側は深い。柱穴底のレベルはほぼ同じ。
- 5.21 建物SB1603の柱穴断ち割り。西北隅建物SB757柱穴の断ち割り。西岸炉跡掘り下げ。
- 5.22 建物SB1603の柱穴断面のはぎとり。西北隅柱穴群断ち割り。
- 5.26 東南部の整地土を平面で確認、整地土(褐灰土)の掘り下げにかかる。炉跡の精査。
- 5.27・28 東南部、褐灰土掘り下げ、西側は褐灰土上にもう一層あり、これを上部整地土として掘り下げ。炉跡の精査。
- 5.29 調査区南部、西側は上部整地土をとり褐灰土を出す、東側は褐灰土上に赤黄色土がのり、北に厚い。
- 6.1 調査区中央部、炉跡群精査。東側、建物付近からある赤黄色土ははずし。西側、上部整地土掘り下げ。
- 6.2 炉跡群精査。東側、赤黄土の掘り下げ。淡灰土面を出す。
- 6.3 炉跡群精査。東側、赤黄土を終了し、淡灰土掘り下げ。'91年石敷SX815南の南北溝SD811の延長と思われる溝検出。
- 6.4 炉跡群精査。炉跡断面はぎ取りと炉跡の取りあげ。東側、南部の南北溝SD811掘り下げ、西岸不明瞭、西へ曲がる可能性あり。中央から南は淡灰土掘り下げ。
- 6.5 炉跡の下の整地土掘り下げ。下層の炭層には多くの遺物有り。東側、南北溝SD811実測。中央から南部は整地土掘り下げ。
- 6.8 南北アゼ西側の上部整地土掘り下げ。中央部と南部北側は暗褐土面、南部南側は褐灰土面を出す。
- 6.9 南北アゼ西側の掘り下げ。中央部は暗褐土



Fig. 16 写真撮影

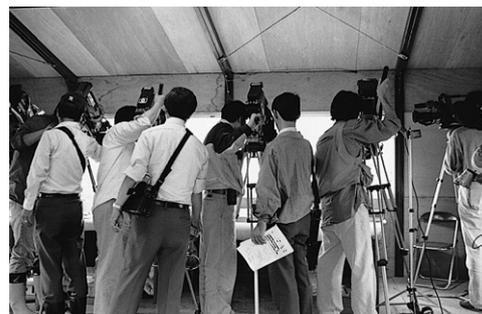


Fig. 17 報道発表

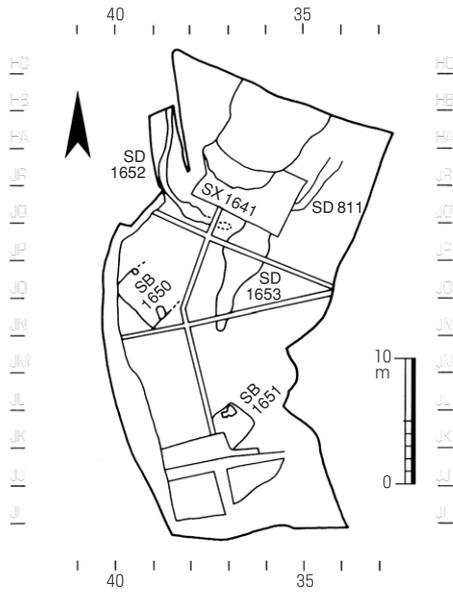


Fig. 18 第87次下層調査区 1:600

をとり、茶褐色土面を出す。南部は、褐灰土をとり、黄土混茶褐色土面を出す。

6.10 南北アゼ西側の調査。中央部、茶褐色土面で方形炉跡検出。南部北側の暗褐色土掘り下げ。

6.11 中央部西側の方形炉跡掘り下げ。南部東側、上部整地土・暗褐色土掘り下げ。

6.12 中央部西側の方形炉跡掘り下げ。東側の暗褐色土掘り下げ。南部東側は茶褐色土にかかる。

6.15 南部東側、茶褐色土はずし。滑石製の白玉・勾玉・円板など出土。西側は茶褐色土下の黄土混茶褐色土掘り下げ。中央部の方形炉跡の精査。

6.16 南部は黄土混茶褐色土掘り下げ。中央部東側は茶褐色土掘り下げ。南北溝SD811は、Qラインアゼの断面観察からここまでのびていないことがわかる。Qラインアゼ北側断ち割り、古墳時代土師器カメ出土。内に滑石製白玉、コハク入る。

6.17 南部東側、黄土混茶褐色土掘り下げ。南側で方形土坑検出。住居跡か(SB1651)。砥石1、焼土分布。中央部西側、黄土混茶褐色土掘り下げ。

6.18 中央部東側に古墳時代土師器・須恵器の集中する部分がある。黄褐粘質土が堆積しており、黄土混の下層になるか。西側は黄土混茶褐色土掘り下げ。JN38に焼土塊集中部あり。方形炉跡断ち割り。竪穴住居跡SB1651精査。

6.23 中央部西側、黄土混茶褐色土除去。方形炉跡断ち割り。北部は茶褐色土掘り下げ。Aラインアゼ南側に大土坑(SX1641)検出。水溜か。

6.24 北部、茶褐色土掘り下げとSX1641の掘り下げ。中央部の方形炉跡写真。

6.25 北部、SX1641掘り下げ。中央部東側で黄土混茶褐色土を下げはじめるが、Qライン東西アゼ付近で土師器カメが集中し、立った状態のものあ

り。中央部の方形炉跡の東に炉跡らしきもの検出。

6.26 中央部東側、土器集中の範囲を精査。土器集中部は下層の炭混茶褐色土上にある古墳時代の溝状遺構(SD1653)と考えられる。北部のSX1641掘り下げ。

6.29 北部、黄土混茶褐色土の掘り下げ。南北アゼ西側で古墳時代製塩土器・カマドなど土器集中部の検出。

6.30 中央部西側の炉跡らしき焼土は、竪穴住居跡の南辺中央のカマドと判明。一辺約4.3mの竪穴住居跡(SB1650)となる。

7.1 写真撮影。空撮。SB1650の検出。

7.2 SB1650の検出。中央部東側、古墳時代南北溝SD1653の検出。

7.3・6 SB1650の検出。

7.7 SB1650内堆積土の掘り下げ。柱穴みあたらない。梵鐘製造土坑SX1600西の炉跡の掘り下げ。

7.8 SB1650、写真撮影と実測。

7.9 SB1650精査。SB1651、写真撮影と実測。

7.10 SX1641の断面をみるためAラインアゼ南側の掘り下げ。SB1650精査。柱穴なし。

7.13 SX1641の掘り下げ。中央部東側の南北溝SD1653掘り下げ。

7.14 SX1641の掘り下げ。大土坑断面の写真撮影。SD1653の土器のとりあげ。南北アゼ西側の土器集中部の遺物とりあげ。

7.15 SB1651精査。

7.17 SD1653掘り下げ。SB1651の精査。北東隅に円形土坑がある。

7.21 SD1653の掘り下げ。溝の最南端部検出。

7.22 SD1653の写真撮影。SB1651の写真撮影。

7.23 北部西側の土器集中部は、東西方向の溝となる。SD1653実測。SX1641実測。'91年検出の石敷SX815中央断ち割り。

7.24 石敷SX815断ち割り。北部西側に拡張レンチを入れる。

7.29 西側拡張区の調査。地山の落ち東側に古墳時代溝の続き検出。弧状の溝(SD1652)となる。

7.30 西側拡張区の調査。

7.31 西側拡張区精査。調査終了。



Fig. 19 調査関係者

iv 飛鳥藤原第93次調査 1998年7月6日～1999年2月23日

7.6～7.22 重機掘削。旧飛鳥池の堤防を削り、堤防下と地底の堆積土を除去する。堤防の高さは北接する84次調査区の地表面から9m近く、池の埋め立て土と堤防を削り、調査が終了した北の84次調査区に盛土する。堤防掘削時に堤の基礎に打ち込まれた丸太杭などが現れる。遺構面は飛鳥池下2mにあり、排土量が多く掘削に手間取る。

7.13 池の堆積状況を分層し、土層断面図の実測をおこなう。池底から柱根が現れる。

7.23 ベルコン搬入。掘削壁面の崩壊を防ぐために、シートを貼って壁面を養生する。

7.24 ベルコンを配置し、人力による掘り下げに着手する。

7.27 発掘に併行して現地で遺物の水洗を開始。

7.28 谷に堆積する炭層の上面を検出し、最上層の遺構検出をおこなう。中世の耕作細溝や、旧飛鳥池の関連施設などを検出。

7.31 炭層の水洗で金が見つかる。

8.4 掘削面が深くしかも土置き場が狭いため、排土の処理に苦勞する。協議の結果、排土の場外搬出が決まる。HN27南北小溝から隆平永寶出土。

8.6 谷筋のNBラインに並ぶ大型の柱穴群を検出。3条の東西塀が並行する可能性が高い。この塀を境に北側には広がらず、塀の南の谷部に堆積する。HM34では旧飛鳥池の樋門とみられる対になる土坑SX1171・SX1168を検出。

8.10・11 炭層上面の写真撮影に向け清掃。炭層は水溜遺構SX1220に堆積することが判明。HKラインで陸橋状施設SX1221を検出。

8.12 炭層の堆積状況の写真撮影。午前はヤグラ、午後はハイライダーを使用。

8.13 トレンチを設定して炭層を断ち割り、炭層の堆積状況を分層する。

8.18 北から最上層に堆積する炭層1の掘り下げに着手。土嚢袋に入れ、トラックで調査部に運搬する。1日の取り上げ量は1000袋に達し、調査員

はラベル書きに追われる。

8.19 電動ふるい機を使用し、取り上げた炭層の水洗を開始。

8.20 HM30の炭層1から富本銭出土。調査員一同色めき立つ。

8.21 炭層掘り続行。奈文研田中所長現場視察。

8.24 石敷井戸SE1160から南東方向に延びる石組排水溝SD1163の検出。

8.26 調査区西辺NB35で検出した石敷井戸SE1160の西半部を検出するため、調査区を西側に拡張する。また東側丘陵裾部の拡張に関して、調整を県文化財保存課に依頼する。

8.27 局地的豪雨に見舞われて調査区冠水し、プールと化する。

8.28 東側丘陵裾部の拡張に向けた現地協議。拡張が決まる。

8.31 調査区の排水とヘドロ除去の復旧作業。

9.1 バキュームカーを使用してヘドロの除去をおこなう。冠水したベルトコンベアー9台のモーターを交換。東側拡張区の重機掘削が始まる。

9.2 石敷井戸の写真撮影。

9.3 炭層掘り続行。東拡張区の遺構検出を開始。焼けた硬化面と炉跡が顔を出す。炉跡の周囲には錆びた鍛造薄片が散乱。細部作業のため、寒冷紗を張って日陰を作るも風にあおられ効果なし。

9.4 84次調査出土木簡の記者発表。

9.8 水洗作業で富本銭発見。

9.9 HQ31炭層1より銅製ピンセットが出土。

9.18 ND32南北溝SD1110上層から銅製人形や木簡が出土。

9.22 台風7号直撃。暴風雨によりコンテナ、シートなどの調査用具が散乱。飛鳥藤原地域は電柱の倒壊などの大被害を蒙る。

9.23 災害復旧。停電状態が続く。

9.28 水洗作業で金・銀・富本銭などが相次いで見つかる。



Fig. 20 池底の重機掘削



Fig. 21 東拡張区の炉跡の調査

9.29 炭層出土金銀に関する報道発表。
 9.30 NB31石組溝上層に堆積する炭溜まりを検出。炭を持ち帰り水洗をおこなう。NA32に東西に並ぶ3基の炉跡に伴う工房の排出物の可能性が高い。石組溝は北側の南北溝SD1110に接続することを確認。
 10.3 午前、奈文研調査指導委員の現地視察。
 10.5 水溜SX1220炭層1の下で検出した南北溝の掘り下げ。石敷井戸SE1160の実測開始。
 10.6 水溜SX1220炭層1下の南北溝の掘り下げ。
 10.8 水溜SX1220炭層1下の南北溝の南延長部の掘り下げ。炭層1の範囲測量。
 10.9 谷中央の東西・南北アゼに残る炭層1の除去。富本銭、埴埦出土。アゼの土層はぎとり。
 10.12 東西・南北アゼの炭層1の掘り下げ。
 10.13 南北アゼ炭層1の掘り下げ。南北アゼ西側南部の炭層2A・2Bの掘り下げ。多量の鋳造関係遺物出土。カンボジア研修生3名、参加。
 10.14 南北アゼ西側の炭層2Bの掘り下げ。鞆羽口・ガラス埴埦・銅鏡片・鋳型・木簡など出土。
 10.15 報道発表。南北アゼ西区炭層2Bほぼ了。南北アゼ東側南部の炭層2A掘り下げ。
 10.18 現地説明会。
 10.19 30ライン東の炭層2A掘り下げ。富本銭出土。

10.20 Oライン東西アゼ南の炭層の調査。炭層2Aをはずし、2B・2Cの面を追跡。2Bは完了。2Cは東側からの投棄炭層(炭層3)の上ののる。2Cはプール状。調査区南端に土層観察用トレンチを入れる。
 10.21 南北アゼ東側の炭層2C掘り下げ。南端トレンチによれば、炭層下は灰色シルトとなる。土器、瓦、鞆羽口あり。この下は腐植土をはさんで灰緑色粘砂となる。飛鳥Iの杯C片出土。
 10.22 南北アゼ東側の炭層掘り下げ。南端トレンチの土層では、炭層2C下の粘土が炭層3の下にもぐる。この粘土以下は工房以前の河川堆積。
 10.23 南北アゼ東側の炭層掘り下げ。東岸部分の炭層掘り下げ。Oライン東西アゼ北側で、谷東肩部にみえる炭層は古く(炭層4)、その下にもう一層炭層あり。カンボジア研修生本日了。林田文化庁長官視察。
 10.26 南東部分、炭層2Cの溜りの状況を写真撮影。炭層2Cの範囲測量。HM28、炭層3の斜面に溜った炭層2Cから富本銭4枚(完形3枚)出土。
 10.27 Mライン・Oラインの東西アゼ際を断ち割り、東側での炭層2Cの範囲を南北に確認。これより東は炭層3。西は古い流路堆積か。
 10.28 南東部分の炭層2C掘り下げ。河川堆積を追うと東側の炭層3の下にもぐり、北と南に下降

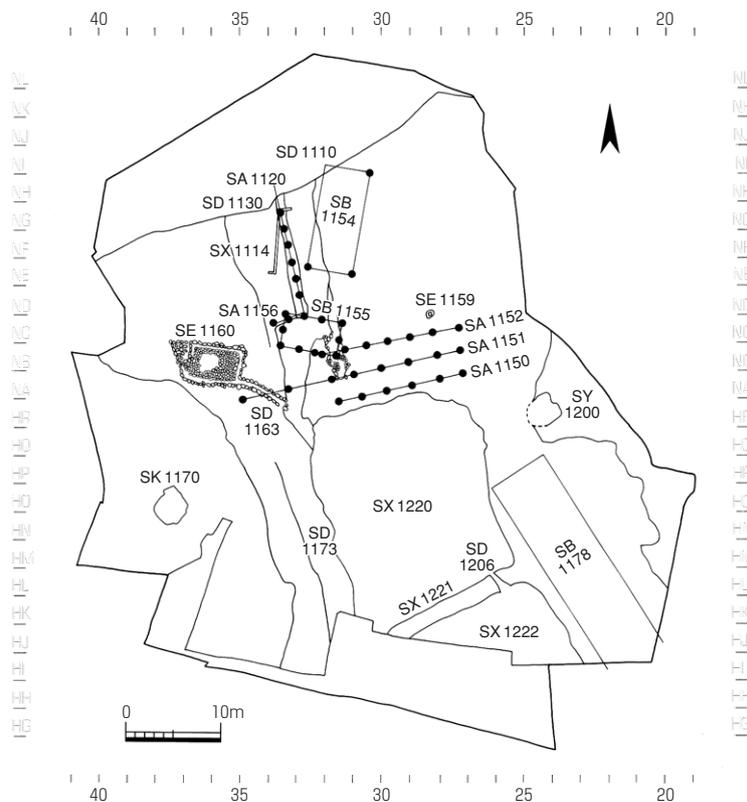


Fig. 22 第93次調査区 1:800

して、炭層が南北にわかれるようである。南側の炭層2Cの落ちの底近くに多量の銅滓・鞆羽口など銅関係遺物多し。

10.29 南東部分の炭層2C掘り下げ。炭層3の堆積状況の写真。炭層を南北にわける高まりは東西方向の陸橋(SX1221)と考える。

10.30 南東部分の炭層3の掘り下げ。銅関係遺物出土。東側でも銅生産をおこなっていたようである。

11.2 南東部分、炭層3の掘り下げ。陸橋SX1221上に南北の水溜をつなぐ斜行溝SD1206検出。北東部分で炭層3より古い堆積があり、炭層3Bとする。炭層3は底近くに遺物多く、漆容器・漆パレットが目立つ。Oライン東西アゼの木屑はざとり。

11.4 東西アゼの南北部分、炭層3・3Bの掘り下げ。東側拡張区の炉跡精査。

11.5 西岸平坦面の遺構掘り下げ。東岸拡張区精査。炉跡、柱穴、斜行溝検出。MP22-24北壁際の堆積土には炉壁多し。

11.6 東岸工房跡の調査。西岸上段の土坑SK1170掘り下げ。

11.9 西岸土坑SK1170掘り下げ。東岸炉跡の実測。空撮に向け清掃。

11.10 写真撮影。

11.11 写真撮影。空撮。

11.12 写真撮影。南半部、河川堆積の黄砂粘掘り下げ。

11.13 南半部、黄砂粘とその下の灰粘土掘り下げ。木簡出土。南西部は整地土を掘り下げ。北側の暗渠SX1114の木樋取りあげ。南北塀SA1120柱穴断ち割り。

11.16 Oライン断ち割りし、堆積状況の確認。整地土下の灰色粘土には少量の土器、瓦あり。その下の腐植土は遺物なし。南北塀SA1120・南北大溝SD1130の断ち割り。SA1120盛土下面から下駄出土。

11.17 Oライン東西アゼ、第84次南壁部分の掘り下げ。第84次掘り残しの南北大溝SD1130掘り下げ。南東部、灰粘土をとり、灰色粘土('91年SD809の灰緑色粘砂層に相当)面を出す。西岸、

整地土の掘り下げ。

11.18 南北塀SA1120の精査。南東部、灰粘土掘り下げ。整地土。南西部は整地土掘り下げ。

11.19 第84次断ち割りトレンチ土層実測。北西部、柱穴断ち割り。南西部、西岸整地土掘り下げ。30ライン西側の灰粘土掘り下げ。

11.20 北西部、南北大溝SD1130の上面検出。南北塀SA1120の西側に南北細溝検出。南へは続かない。南西部、西岸の灰粘土掘り下げ。

11.24 北西部西岸、南北塀SA1120は西に1間折れるか。南北細溝も西に折れるか。NC28小井戸SE1159掘り下げ。土師器甕出土。東西塀SA1150、SA1151柱穴の断ち割り。東岸、工房堆積土の掘り下げ。HP26付近の炉壁集中より下を炭層4Aとする。炭層4A下面で炉跡2基確認。

11.25 南半部、流路の写真撮影。東岸、炭層4A掘り下げ。富本銭出土。北部、井戸SE1159掘り下げ。東西塀SA1150・SA1151・SA1152柱穴断ち割り。東拡張区、南北に拡張。北側で瓦窯(SY1200)発見。飛鳥寺東南禅院所用瓦窯か。

11.26 東岸、炭層4A・4B掘り下げ。

11.27 東岸、炭層掘り下げ。井戸SE1159の断ち割り。東側の拡張了。

11.30 西北部、南北大溝SD1130中層掘り下げ。その下の木屑層は薄く、下層粘土面を出す。中層面から切り込む南北小柱穴列検出。東岸、炭層4Bの掘り下げ後、炭層4Cにかかる。炭層4Cから海老錠・海老錠の様出土。瓦窯SY1200の検出作業。

12.1 西北部、南北大溝SD1130中層の掘り下げ。東岸、炭層4C掘り下げ。瓦窯SY1200は輪郭を出した後、四分法で掘り下げ。

12.2 西北部、南北大溝SD1130中層掘り下げ。東岸、炭層4掘り下げ。HN26、炭層4B・4Cの境で富本銭出土。瓦窯SY1200の窯内瓦の状況を写真撮影。窯跡南の壁土集中部分の掘り下げ。窯になるか？

12.3 西北部、南北大溝SD1130下層掘り下げ。東岸、炭層4C掘り下げ。瓦窯SY1200の調査。北区、瓦とりあげ。窯南の壁土掘り下げ。



Fig. 23 木樋のとりあげ



Fig. 24 木樋のとりあげ

12.4 西北部、南北大溝SD1130西岸に、細い枝を打ち込んだ、しがらみ検出。東岸南部、青灰粘土掘り下げ。瓦窯SY1200、北区・西区、床面直上まで出す。写真後、実測にかかる。窯南の壁土掘り下げ。

12.7 炉跡、瓦窯SY1200実測。

12.8 北西部、南北大溝SD1130掘り下げ。東岸南部、青灰粘土を掘り下げ、炭層面を出す。谷部分に炭層が顔を出す。瓦窯SY1200、床面出し。登窯の燃焼室の可能性を検討。

12.9 北西部、南北大溝SD1130本日了。瓦窯写真撮影、実測。窯跡SY1200南の壁土集中部分掘り下げ。壁体を捨てた土坑と考えられる。東岸南部、炭層面・炉跡の検出。

12.10 東岸、炭層面での遺構検出。小ピット多。西岸、古い河川堆積SD1173掘り下げ。上層は青灰砂質土。中層は暗灰緑粘質土で、'91年の灰緑色粘砂相当か。瓦窯SY1200、最終床面を出し、写真撮影。上層床面から15cm下で下層床面あり。

12.11 東岸南部、炉跡の調査。HN21方形炉の断ち割り。西岸、南北大溝SD1173掘り下げ。下層の暗灰粘土層は遺物少ない。瓦窯SY1200、下層床面検出。

12.14 東岸南部、炭層1の肩を出し掘り下げ。西岸、南北古溝SD1173北延長部掘り下げ。瓦窯SY1200、第1次床面の検出。焚口部分の壁残存、燃焼室が残っていると判断。

12.15 東岸南部、炭層1・炭層2Aの掘り下げ。西岸、南北古溝SD1173掘り下げ。石敷井戸SE1160掘り下げ。瓦窯SY1200の写真撮影、実測開始。

12.16 東岸南部、炭層1・2A・3掘り下げ。石敷井戸SE1160の井戸枠抜取穴埋土掘りあげ。

12.17 東岸南部、炭層3掘り下げ。石敷井戸SE1160の調査。掘形まで出して掘り下げることにする。敷石に番号をつけてとりはずし。

12.18 東岸南部、炭層3の掘り下げ。底近くに漆附着土器多。石敷井戸SE1160の調査。写真撮影。

12.21 石敷井戸SE1160、埋め戻し。東岸南部、

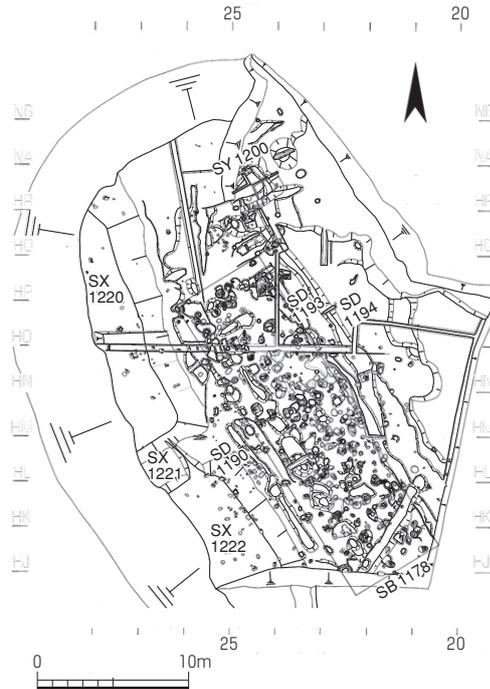


Fig. 26 東岸工房跡 1:500

炭層4Aにかかる。東南部、遺構検出。炉跡、焼土面検出。瓦窯SY1200、焚口と燃焼室との関係精査。

12.22 瓦窯SY1200の報道発表。東岸南部、炭層4A終了。工房面精査。

12.24 東岸南部、工房面の精査。水溜SX1222の底さらえ。炭層3の下は灰粘土でとりあげ。多量の鞆羽口、鋳滓、土器出土。瓦窯SY1200、断ち割り。

12.25 瓦窯SY1200、断ち割り部分の実測。

1999.1.7 東岸南部、灰粘土残り除去。瓦窯SY1200、掘形確認の断ち割り。瓦窯SY1200南西及び北東の土坑掘り下げ。

1.8 清掃。

1.11 写真撮影。空撮。

1.12 東岸、炉跡実測。HO25の3基の炉跡のとりあげ。南端部、陸橋SX1221の断ち割り。木屑(草や木片)を入れた面が2枚ある。西岸、石敷



Fig. 25 文化庁長官視察



Fig. 27 炭層の掘り下げ

井戸SE1160北で整地土をとり、南北古溝SD1173を出す作業。瓦窯SY1200、南壁の瓦積の状況を出す。

1.13 東岸、炉跡・柱穴の断ち割り。北部の炭層4A下から、新たに炉跡2基検出。陸橋SX1221断ち割り。敷葉面の写真撮影。西岸、南北古溝SD1173検出のため、整地土掘り下げ。北側の断ち割り部分の溝中から木簡出土。瓦窯SY1200、南壁の瓦の取りあげ、最下段の瓦の下に石がおかれる。

1.14 東岸南部、炭層4C掘り下げ。HL23で炭層4D面に営まれた新たな炉跡検出。西岸、南北古溝SD1173の掘り下げ。飛鳥Iの土器出土。瓦窯SY1200、掘方の確認調査。下層に炉跡検出。

1.18 東岸南部、炭層4Cを掘り下げ、炭層4D面で遺構検出。新たな炉跡検出。西岸、南北古溝SD1173の掘り下げを終え、写真撮影。瓦窯SY1200、断ち割り部分の実測。瓦窯調査終了。調査区南西部から砂入れ開始。

1.19 富本銭、報道発表。東岸南部、炭層4Cを掘り下げて、炭層4D面で遺構検出。

1.20 東岸南部、炭層4D面の炉跡精査。瓦窯SY1200の南側の掘り下げ。

1.21 東岸北部、炭層4C掘り下げ、遺構検出。南部、炉跡実測。

1.22 東岸北部、炭層4D面での遺構検出。細長い形状の土坑検出。

1.23 東岸北部、炭層4D面の遺構検出。土坑の掘り下げ。炉跡の取りあげ。

1.25 展示棟予定地の埋め戻し開始。

1.26 東岸、炭層4D面写真撮影。南から炭層4Dの掘り下げ。少量瓦を含む。炭層4D面で新たな炉検出。

1.27 東岸、炭層4D掘り下げ。炭層4D下は黄灰整地土面となるが、この面にも土坑があり、その上に炉跡がつくられている。

1.28 東岸、炭層4D掘り下げ。L、M地区に銅緑青が目立つ。

1.29 東岸、炭層4Dを掘り下げ、遺構検出。炭層4D面下の炉跡は山土の置き土なし。鉄と銅の違いか。

1.30 東岸北部、炭層4Dを掘り下げて遺構検出。HN23の炉跡は緑青を埋土に含んだもの多。

2.1 東岸北部、瓦窯SY1200周辺の炭層4掘り下げ。出土遺物はほとんど鉄関連。

2.2 東岸中央部、炭層4D掘り下げ、遺構検出。東側で、工房区画溝新旧2本（SD1194・SD1193）検出。古い溝SD1194は瓦窯SY1200の下へもぐる。

2.3 東岸、炭層4D掘り下げ、遺構検出。区画溝SD1194の延長掘り下げ。

2.4 東岸、炭層4D掘り下げ。炉跡精査。区画溝SD1194・SD1193を追う。

2.5 東岸、炭層4D掘り下げ。西辺区画溝（SD1190）検出。

2.8 東岸、清掃し写真撮影。

2.9 東岸、炉跡実測。

2.10 東岸、空撮。炉跡実測。Oライン東側の断ち割りにかかる。

2.12 東岸、区画溝SD1194・SD1193掘り下げ。SD1193溝底で楕円形土坑2基検出。Oライン東側の断ち割り。

2.15 東岸、Oライン東側の断ち割り。炭層5Cの遺物を含む腐植土面まで下げる。区画溝SD1193溝底の楕円形土坑掘り下げ。区画溝SD1194掘り下げ。炉跡実測。

2.16 東岸、区画溝SD1193溝底の楕円形土坑内の北側に円形穴がある。西辺区画溝（SD1190）にかかる土坑の掘り下げ。

2.17 東岸、土坑の写真撮影と実測。炉跡のサンプリング。北部から砂入れ。

2.18 柱穴の断ち割りの実測。炉跡サンプリング。

2.19 柱穴断ち割り。砂入れ。

2.22 実測。炉跡の写真撮影。砂入れ。

2.23 実測。砂入れ。本日で調査終了。



Fig. 28 金属探知機による探査



Fig. 29 炉跡の切り取り作業

v 飛鳥藤原第97次調査 1999年3月15日～5月10日

- 3.9 現地協議、調査区設定。
 3.10～12 重機掘削。
 3.15～16 遺構検出面までの排土。
 3.17 西端から遺構検出。
 3.18 新しい石垣取りはずし。
 3.23 新しい石垣とその北の新溝の下から東西柱列の検出。飛鳥寺南面大垣 (SA1060) か。柱列の南に石列あり。雨落溝か。
 3.24 石列は一列しかないで南面大垣の基壇縁石とみられる。柱穴は柱間があわないものがある。
 3.25 新しい石垣除去と灰褐土掘り下げ。ほぼ西半まで了。
 3.26 西北部の柱穴掘り下げ。基壇南側の瓦層の検出。調査区中央部 (45ライン付近) に石敷 (SX1065) 検出。石敷の上に茶褐土堆積。
 3.29 基壇南の瓦層の検出。
 3.30 基壇南の瓦層の掘り下げ。第84次検出の下層石組溝SD1072の検出。
 3.31 基壇南の瓦層の掘り下げ。瓦層下に南面大垣の南雨落溝 (SD1063B) 検出。石敷SX1065を壊している。
 4.1 雨落溝SD1063Bの掘り下げ。石敷SX1065より東の灰褐土掘り下げ。石組溝SD1072実測。
 4.2 雨落溝SD1063B掘り下げ。石敷SX1065以東の調査。瓦層の掘り下げ。
 4.5 石敷SX1065以東の調査。瓦層の掘り下げ。西側の実測開始。
 4.6 石敷SX1065下に走る東西溝 (SD1063A) 検出。下層の東西溝 (SD1071) の肩検出。
 4.7 東西溝SD1063A掘り下げ。
 4.8 東西溝SD1071掘り下げ。
 4.9 空撮。写真撮影。
 4.12 東側実測開始。東西溝SD1071掘り下げ。



Fig. 30 調査風景

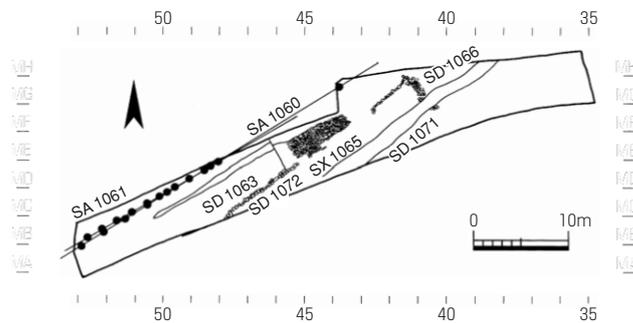


Fig. 31 第97次調査区 1:800

- 4.13 東西溝SD1071掘り下げ。石敷SX1065西側で、基壇石列南の茶灰土IIを掘り下げ、下層瓦層を出す。
 4.14 石敷西の下層瓦層の検出。
 4.15 下層瓦層写真撮影。実測。
 4.16 下層瓦層の下の東西溝SD1063A掘り下げ。東西溝SD1071のベース土を除去し、石組溝SD1072検出。東側で南北溝 (SD1066) 検出。
 4.19 下層瓦層の下の東西溝SD1063A掘り下げ。
 4.20 石組溝SD1072の北肩石列検出。南北溝SD1066東側の石と石組溝SD1072石列の状況からは、接続部分が池状となっていた可能性あり。
 4.21 東西溝SD1063Aの写真撮影。南北大溝SD1066・石組溝SD1072交差部分の精査。
 4.22 西側柱穴断ち割り。石組溝SD1072の灰砂掘り下げ。
 4.23 西側柱穴断ち割り。大柱穴が並ぶ。石組溝SD1072・南北溝SD1066周辺の写真撮影。
 4.26 西側の柱穴断ち割り。東西溝SD1063A・石敷SX1065東側の実測。
 4.27 大垣SA1060柱列の断ち割り。柱抜取は基壇石列の据え付け掘方を切ることから築地ではなく基壇をもつ一本柱塀。石敷SX1065東側の実測。
 4.28 西側の柱穴、断ち割り。西側の柱列について、大垣SA1060以外の柱穴は西3間 (SX1061)・東4間以上 (SX1062) の別の遺構と考える。
 4.30 西側の柱穴、断ち割り。南北溝SD1066下層掘り下げ。腐植土層を切ってつくられている。
 5.6 大垣SA1060柱根の取りあげ。
 5.7 東西溝SD1063Aは南面大垣SA1060と共存、のちに下層瓦層を敷き、石敷SX1065を施すと理解。
 5.10 断ち割り部分の埋め戻し。機材撤収し、調査終了。

vi 飛鳥藤原第98次調査 1999年3月17日～9月16日

- 3.17 調査区設定。
- 3.23～31 重機掘削。
- 4.1 重機掘削。周辺整備。
- 4.2・5 重機掘削。調査区整形、東南隅で谷埋土最上層の掘り下げ。
- 4.6 重機掘削。南壁の土層観察。
- 4.7 重機掘削。南壁土層の実測。
- 4.8 重機掘削終了。'91年の試掘トレンチ確認。
- 4.9 南壁土層の写真撮影、実測。谷の西岸部の遺構検出。谷は炭層の上に腐植土層堆積。
- 4.12 調査区南側、谷東岸での遺構検出。
- 4.13 谷東岸での遺構検出。小溝検出。
- 4.14 谷東岸遺構検出。灰褐色掘り下げ、茶褐色ないし黄褐色粘質土上面で遺構検出。中央部で大型方形炉 (SX1243) 検出。工房の最終床面 (明黄褐色粘質土) 確認。南側で谷の東岸部検出。鉄滓が多い。
- 4.15 谷東岸の遺構検出。新たに大型方形炉 (SX1242) 検出。小型の炉も検出。
- 4.16 谷東岸の遺構検出。大型方形炉 (SX1244) さらに1基検出。3基が正三角形に並ぶ。丘陵裾をまわる溝あり。

- 4.20 調査区西北部、灰褐色土を掘り下げ、谷筋の腐植土層の輪郭を出す。南側から腐植土層 (茶土) 掘り下げ。23ライン付近に谷に直交するアゼを設ける。
- 4.21 アゼから下流の茶土掘り下げ。西方は炭層上面があらわれる。茶土出土遺物は平安時代。アゼに沿い、上流側にトレンチ設定。東北端で銅を含む炭層「銅炭ブロック」(富本銭土坑A SK1240) を検出。富本銭が入る。富本銭製造の廃棄物ブロックか。周辺でも富本銭、鑄棹出土。
- 4.22 銅炭ブロックSK1240掘り下げ。富本銭、坩堝、鞆羽口出土。持ち帰った土からついに富本銭鑄型が出土する。アゼ北側茶土掘り下げ了。アゼすぐ北で、上幅60cm程の陸橋 (SX1225) を検出。銅炭ブロックSK1240は陸橋SX1225の北端上流側にある。アゼから上流の茶土掘り下げ。
- 4.26 アゼから上流の茶土掘り下げ。もう1本上流の陸橋 (SX1227) 検出。銅炭ブロックSK1240掘り下げ続行。谷西岸で、第87次検出の堀SA1237北への続きをさぐる。
- 4.27 銅炭ブロックSK1240掘り下げ後、写真撮影。谷中央から上流側、灰褐色土および灰褐色砂土の

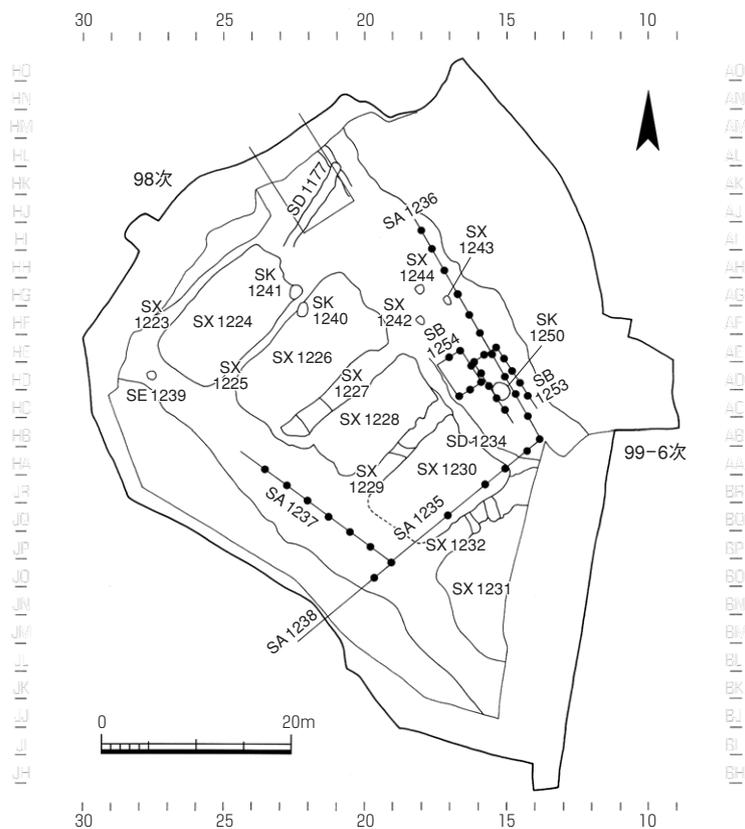


Fig. 32 第98次・第99-6次調査区 1:800

掘り下げ。谷西岸は塀SA1237の続きを探すが出でず。

4.28 銅炭ブロック実測。谷上流部分、灰褐砂土掘り下げ。銅炭ブロックSK1240の下流の炭層にトレンチを入れる。

4.30 南端近くに大きい陸橋（SX1232）検出。北東側に杭列あり。

5.6 南端の茶土掘り下げ。陸橋SX1232の上面に玉石・砂岩切石散在。陸橋SX1232の下流側に、もう1本陸橋（SX1229）を検出。北西からも遺構検出にかかる。

5.7 陸橋SX1232上面の精査。東岸工房部の遺構検出。

5.10 東岸南端付近、赤褐土・赤褐砂土掘り下げ。東岸北端付近、炭層上の緑灰土と平安時代の溝掘り下げ。これらの下に炉跡がある。

5.11 東岸南部、赤褐砂土下の青灰土掘り下げ。谷に近い西側は、黄灰土を掘り下げ遺構検出。土坑の掘り下げ。東岸北部、炭層上の堆積土である褐炭土掘り下げ。

5.12 東岸北部、サブトレンチ掘り下げ。炭層は深い。陸橋SX1225の下流側、茶土をとり炭層の掘り下げにかかる。陸橋SX1227の下流側、茶土掘り下げ。南東側にサブトレンチ入れる。

5.14 陸橋SX1225下流側の調査。西側は炭層2にかかる。東側は炭層1掘り下げ。陸橋SX1227下流側、茶土掘り下げ。陸橋SX1227上の西側には、陸橋築土にかぶる茶砂土が溝状に堆積。

5.17 陸橋SX1225の下流側、東側は炭層1掘り下げ。西側は炭層2を掘り下げ。陸橋SX1227の西岸付近は、谷側堆積層の炭混灰土を掘り下げ。HE26でガラス埴埴集中出土。

5.18 陸橋SX1225下流側の調査。東側は炭層1掘り下げ。西側は炭層2Bにかかる。陸橋SX1225東北部で銅炭ブロック（富本銭土坑B SK1241）検出。西岸北端部で素掘りの井戸（SE1239）検出。平安時代か。陸橋SX1229上流側の茶土掘り下げ。

5.19 陸橋SX1225下流側の調査。東側は、炭層2・2B掘り下げ。西側は炭層2Cの掘り下げ。陸橋SX1229上流側は茶砂土掘り下げ。

5.20 陸橋SX1229より下流側は、茶砂土下の茶褐砂掘り下げ。陸橋SX1229・SX1232間に谷を横断するサブトレンチ設定。陸橋SX1225下流側は、東側は炭層2B、西側は炭層2D掘り下げ。

5.21 陸橋SX1225下流側、東岸の精査。陸橋SX1227・SX1225間、炭混灰粘土掘り下げ。陸橋SX1229・SX1232間、茶砂土掘り下げ。

5.25 陸橋SX1225西岸付近、炭層2C・2Dを掘り下げた後、ベースの炭混腐植土・炭混砂土を掘り下げる。上層の炭混腐植土は陸橋SX1225の上にかぶる。東岸北端付近、炭層2掘り下げ。

5.26 陸橋SX1232上面の暗褐砂掘り下げ。陸橋SX1229・SX1227間、茶砂土掘り下げ。陸橋SX1227下流側、木屑混灰粘土掘り下げ。陸橋SX1225の西端北側、炭混腐植土・炭混灰土掘り下げ。

5.28 陸橋SX1229・SX1227間、茶砂土掘り下げ。陸橋SX1227・SX1225間、腐植土混灰粘土掘り下げ。陸橋SX1232の上流側は、茶土下の茶砂土掘り下げ。陸橋SX1225から下流側は、炭混腐植土を掘り下げ灰粘土を出す。陸橋SX1225下流側にもう1本陸橋（SX1223）がある。

5.31 陸橋SX1225部分にかかるアゼははずし。アゼの東側（陸橋東南部）、炭混灰土掘り下げ了。陸橋SX1232上流側、灰白粘土掘り下げ。

6.1 東岸南端部分の斜行溝掘り下げ。陸橋SX1227の北肩を出す。陸橋SX1225・SX1223間掘り下げ。陸橋SX1223の南肩を出す。

6.2 陸橋SX1223西岸部分のアゼをはずす。陸橋SX1223の東側への続き調査。

6.3~4 陸橋SX1225部分にかかるアゼの除去。銅炭ブロックSK1241掘り下げ。陸橋SX1227東端付近の遺構検出。陸橋SX1227・SX1225間、東岸部分の黄粘土をはずし、炭層の輪郭さがし。陸橋SX1223東側で炭層3の掘り下げ。

6.6 飛鳥池遺跡を考える会の見学。

6.8 東岸北部、炭粘土を掘り下げ、炉跡の検出。炭層2の掘り下げ開始。第93次検出の平安時代の溝SD1177の続き検出。陸橋SX1227上流側の茶砂土掘り下げ。

6.9 東岸北部、炉跡実測と炭層掘り下げ。陸



Fig. 33 調査風景



Fig. 34 飛鳥池遺跡を考える会の見学

橋SX1227上流側、茶砂土掘り下げ。SX1225の上流側東部、炭層の掘り下げ開始。

6.10 陸橋SX1225上流側、東部の炭層2・2B・2F掘り下げ。東岸中央から北部分、地山と工房面との間の精査。丘陵裾に柱穴3基検出。東岸北部、黄褐炭土掘り下げ、炭層4A面で土坑検出。

6.11 東岸北部、炭層2F掘り下げ。2F中に粘土間層がある。東岸中央部分の丘陵裾部、灰褐土・青灰土をとり、遺構検出。

6.14 陸橋SX1225東側、炭層2Fの掘り下げ。陸橋SX1223下流側は炭層3の掘り下げ。東岸丘陵裾部の遺構検出。

6.15 陸橋SX1223東側の北・南で炭層3掘り下げ。陸橋SX1225東端周辺の炭層2F掘り下げ。東岸丘陵裾南半部に柱穴列(SA1236)検出。これに直交し、谷をわたる柱穴列(SA1235)がある。西岸の堀SA1237・南の丘陵上へのびる堀SA1238とつながるらしい。

6.16 炭層以外の部分について写真撮影。

6.17 陸橋SX1232上にある砂溝掘り下げ。陸橋SX1229北東端で炭溜検出。東岸大型方形炉掘り下げ。西岸の井戸SE1239掘方掘り下げ。

6.21 写真撮影。

6.22 空撮。写真撮影。

6.23 東岸北側に広がる炭混土を炭層4Iとして下げはじめる。陸橋SX1225・SX1223間、東側で炭層内を断ち割り。

6.24 東岸北側の炭層4Iの掘り下げ。

6.28 東岸北部の炭層状況写真撮影。

6.29 写真撮影。

6.30 第87次東区北壁部分の土層図作成。

7.1 西岸の井戸SE1239断ち割り。東岸、大型方形炉SX1244精査。

7.2 航空写真撮影。

7.5 東岸、大型方形炉とその北側の炉跡調査。

7.6 東岸、炉跡の検出。

7.7 東岸、大型方形炉調査。北側の炉跡・土坑の調査。

7.8 東岸、炉跡の精査。

7.9~20 現場中断。

7.21 清掃。

7.22 清掃。写真撮影。

7.23 報道発表。写真撮影。現地説明会準備。

7.25 現地説明会。

7.26 谷底を縦断するトレンチの調査。東岸炉跡の調査。

7.27 谷底トレンチ掘り下げ。東岸炉跡の調査。大型方形炉の調査。

7.28 谷底トレンチ掘り下げ。

7.29 谷底トレンチ掘り下げ。東岸炉跡の調査。

7.30 谷底トレンチ掘り下げ。陸橋SX1227下も草木を敷いた痕跡確認。陸橋SX1232上の最上層砂溝を掘り下げ。

8.2 陸橋SX1232上の砂溝掘り下げ。

8.3 陸橋SX1232上の砂溝掘り下げ。写真撮影と実測。谷底トレンチ壁面土層の分層。炭層断面2ヵ所はぎとり。

8.4 陸橋SX1232東側の遺構検出。

8.6 陸橋SX1232実測。

8.9 陸橋SX1232上の一時期古い砂溝掘り下げ。谷底のトレンチ、土層図作成開始。

8.10 陸橋SX1232上の砂溝掘り下げ。

8.12 谷底のトレンチ・炭層断面から、土層サンプル採取。

8.17 東岸南部の遺構検出。

8.18 陸橋SX1232・SX1229間の東岸、谷筋に平行する斜行溝(SD1234)検出。

8.19 堀SA1236柱穴断ち割り。斜行溝SD1234の掘り下げ。

8.20 堀SA1236・SA1235の柱穴断ち割り。堀SA1235柱穴の柱根は長さ約150cm残る。斜行溝SD1234掘り下げ。陸橋SX1232下に別の陸橋がありそう。

8.23 SA1235柱穴断ち割り。斜行溝SD1234掘り下げ。

8.24 斜行溝SD1234掘り下げ。堀SA1235の柱穴断ち割り。HA15柱穴の柱根は、下の方が細く、こげている。

8.25 堀SA1235の柱穴断ち割り。斜行溝SD1234掘り下げ。



Fig. 35 土層はぎとり作業



Fig. 36 実測風景

- 8.26 斜行溝SD1234を完掘し、写真撮影。JR15の堀SA1235柱穴は、陸橋SX1232の築土がのり、堀が陸橋に先行すること確認。堀の西への続きを探す為、トレンチを入れて下層調査はじめる。
- 8.27 陸橋SX1232西部分の精査。北肩に杭列。堀SA1235の西へのつづきを探す。
- 8.30 陸橋SX1232下層の陸橋(SX1233)が判明。堀SA1235の柱穴はこの陸橋の中央に並ぶ。これの上流側に築土して陸橋SX1232がつくられている。堀SA1235の続きの柱穴2カ所の精査。
- 8.31 陸橋SX1232の断面はぎとり。下層の陸橋SX1233を部分的に検出する。
- 9.1 陸橋SX1233の写真撮影。陸橋SX1232・SX1229間、谷中央から東岸の断ち割りトレンチの調査。
- 9.2・3 堀SA1235、東から5間目の柱穴断ち割り。
- 9.6 東岸南部に下層調査区設定。柱穴検出。砂

- 入れ開始。
- 9.7 下層調査区、大型方形炉SX1250検出。東岸北端部、炉跡の精査。
- 9.8 下層調査区の遺構検出。東岸北端部、炉跡の精査。
- 9.9 下層調査区拡張、柱穴検出。東岸北端部の遺構検出。南側から埋め戻し開始。
- 9.10 下層調査区、柱穴精査。建物は2×4間以上になる(SB1253)。東岸北端部の精査。
- 9.11 東岸北端部の遺構検出。下層調査区、柱穴の断ち割り。
- 9.12 東岸北端部の精査。下層調査区、柱穴・大型方形炉の調査。
- 9.13 東岸北端部の精査。
- 9.14 東岸北端部の精査。HJ22炉跡の重複関係の確認。炉跡の土壌サンプリング。砂入れ終了。
- 9.16 撤収。調査終了。

vii 飛鳥藤原第99-6次調査 1999年11月4日～11日

- 11.4 第98次調査区南東端の東側に、堀SA1235の延長を確認するため調査区設定。重機掘削。
- 11.5 東側丘陵斜面から遺構検出。
- 11.8 東の高い部分には、堀の延長の柱穴なし。第98次の柱穴から1間目の位置精査。
- 11.9 第98次柱間から1間目精査するも柱穴なし。念のため断ち割りをおこなう。
- 11.10 断面、地山面の平面でも柱穴は確認されず。堀はSA1236までと判断する。
- 11.11 実測ののち砂入れをおこない調査終了。

viii 飛鳥藤原第86次調査 1997年7月7日～11月11日

- 7.7～8 発掘準備。6枚の田に調査区設定。
- 7.9 4区から開始。耕土除去。
- 7.10 4区、灰茶土掘り下げ。
- 7.11 4区、灰茶土下の赤灰土掘り下げ。
- 7.14 4区、赤灰土の掘り下げ。
- 7.15 4区、赤灰土下の灰砂土での遺構検出。小溝のみ。灰砂土掘り下げ、瓦器を含む。
- 7.16 4区、中央部灰砂土下の暗灰砂土掘り下げ。東南隅から北西方向に石が並ぶ。溝の岸か。
- 7.25 4区中央部分、暗灰砂土の掘り下げ。暗灰砂土の下は腐植土層堆積。暗灰砂土には7C末の遺物含む。調査区全体が流路(SD1700)の中。
- 7.28 1区、耕土除去。
- 7.29 1区と2区の耕土・床土除去。
- 7.30 1区、床土除去。
- 7.31 1区、床土下層・灰褐土掘り下げ。
- 8.1 1区北半、灰褐土下の黒砂土上面で柱穴検出。南半、灰褐土下の茶灰土掘り下げ。
- 8.4 1区北側、暗灰土掘り下げ。中央部、茶灰土掘り下げ。AP62に礫群(SX1758)あり。南端、灰色砂質土面で遺構検出。
- 8.5 1区中央部、茶灰土掘り下げ。礫群SX1758精査。流路(SD1720)の護岸か。北側東へ拡張。
- 8.6 1区北半の調査。2区、耕土・床土除去。3区耕土除去。
- 8.7 1区北側の遺構検出。
- 8.8 1区北側で建物1棟(SB1721)まとめる。4区・1区写真撮影。
- 8.11・12 3区、床土除去。1・4区実測開始。
- 8.18 2区、床土下層除去。3区、青褐色土掘り下げ。



Fig. 37 調査風景

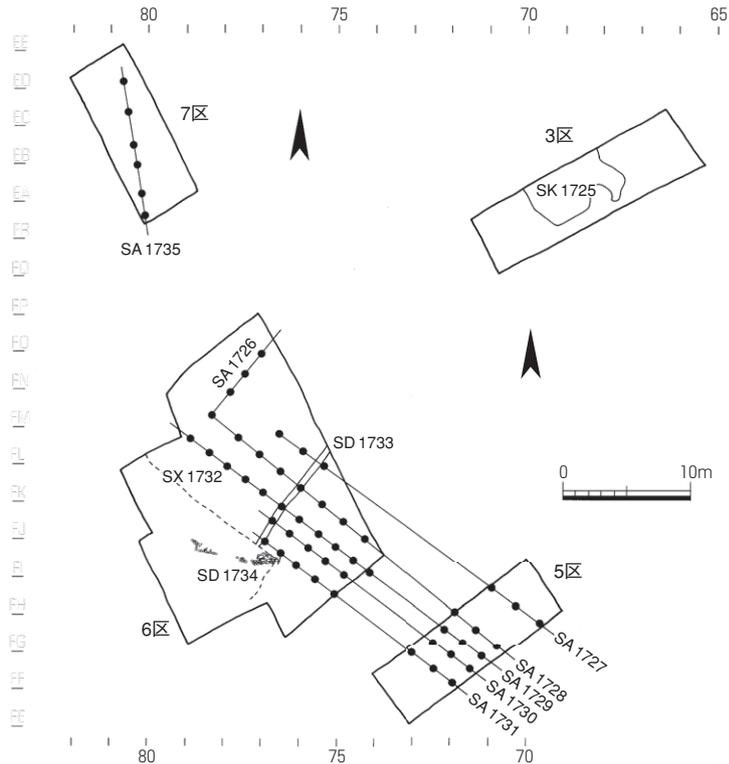
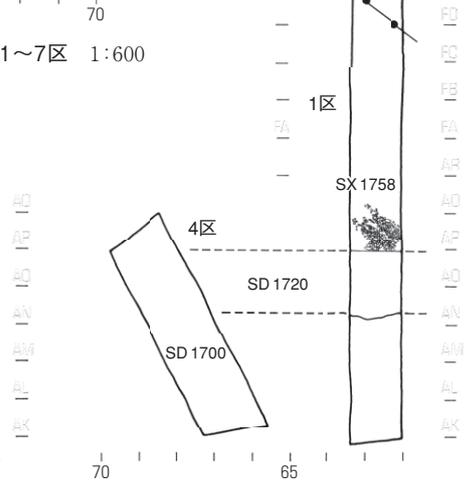


Fig. 38 第86次調査 1~7区 1:600

- 8.19 2区、床土下層・瓦礫層掘り下げ。3区、青褐色土をとり遺構検出。
- 8.20 2区、暗灰土面で遺構検出。小穴検出。3区、中央部の落ち込み (SK1725) 掘り下げ。6区の耕土除去にかかる。
- 8.21 2区、遺構検出。小穴の掘り下げ。3区、写真撮影。6区、耕土除去。
- 8.22 2区、遺構検出。3区、実測。6区、床土除去。
- 8.25 2区、遺構検出。小穴検出。6区、赤褐色土面で遺構検出。小溝、柱穴検出。
- 8.26 2区、写真撮影。6区、遺構検出。柱穴検出。7区の耕土除去にかかる。
- 8.27 2区、写真撮影、実測。6区、赤褐色土掘り下げ。暗褐色土上面で柱穴検出。
- 8.28 6区、赤褐色土を掘り下げ、暗褐色土面を出す。北端付近、堀と考えられる東西柱穴列 (SA1726) 検出。南側の柱穴は建物か。7区、床土除去。
- 8.29 6区、西側に拡張。7区、床土除去。8区、耕土除去にかかる。
- 9.1 6区拡張区、耕土・床土除去。7区、床土除去。8区、耕土除去。
- 9.2 6区拡張区、耕土・床土除去。7区、赤褐色土下げて遺構検出、小柱穴列 (SA1735) 検出。
- 9.3 6区拡張区、床土下の赤褐色土面で小溝検出。7区、写真撮影。8区、床土除去。
- 9.4 6区拡張区、赤褐色土の掘り下げ。8区、暗灰土掘り下げ。



- 9.5 6区、暗灰土面で遺構検出。南側で建物と考えていた柱列は北へ延び、2条の堀 (SA1728・SA1729) となる。一本は東西堀SA1726と連結。
- 8区、暗灰土掘り下げ。西南隅に石組あり。
- 9.9 6区、遺構検出。8区、暗灰土掘り下げ。
- 9.10 6区、遺構検出、堀SA1729は北へのびる。東辺にも3間の堀 (SA1727) 検出。8区、灰砂土面で遺構検出、第84次検出の石組排水路SD1101の続き出ず。
- 9.11 6区、遺構検出。8区、遺構検出、小溝検出。
- 9.12 6区、写真撮影。8区、遺構検出。5区の耕土除去。
- 9.16 5区、床土除去。6区、実測開始。8区、灰砂土掘り下げ。平安時代の水田遺構2面 (SX1740・SX1741) 検出。

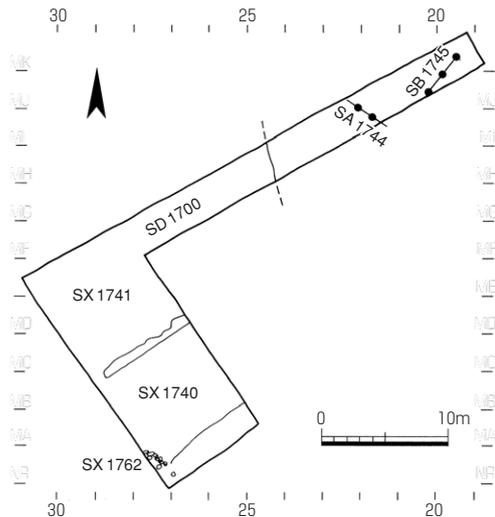


Fig. 39 第86次調査 8区 1:600

- 9.17 5区、床土除去。8区、水田の検出。西南隅の石組は水田より新。
- 9.18 5区、床土除去。8区北端東側に、東西方向の拡張区設定。
- 9.19 8区、水田SX1741掘り下げ。拡張区重機掘削。
- 9.22 8区拡張区、床土除去。
- 9.24 8区拡張区、遺構検出。
- 9.25 5区、暗灰土面で遺構検出。6区の塀SA1729の延長の柱穴検出。8区、拡張部遺構検出。西半は水田か。
- 9.26 5区、遺構検出。8区拡張区、東側で柱穴検出。
- 9.29 5区、遺構検出。6区の塀SA1728の延長で柱穴検出。8区拡張区、遺構検出。
- 9.30 5区、写真撮影。8区拡張区、遺構検出。水田SX1740内の足跡(SX1759)検出。
- 10.1 5区、実測開始。8区、実測開始。南方水田に9、10区設定。
- 10.2 8区、北辺部の掘り下げ。
- 10.3 8区、北辺部掘り下げ。
- 10.6 8区西半、北辺部暗灰シルト掘り下げ。東西両側で暗灰シルト下が砂層となる。拡張区西端あたりが暗灰シルト深くなる。流路SD1700のある時期の中心か。東端の柱穴断ち割り。
- 10.7 8区、流路SD1700中心部の灰粗砂で、隆平永宝や銅金具出土。
- 10.8 8区、灰粗砂の下に暗褐粘砂があり、青灰粘土(地山)の上で東にのびている。9・10区耕土除去にかかる。
- 10.9 8区、流路SD1700中心部東側の精査。9区、耕土・黄灰土掘り下げ。10区、耕土・床土除去。
- 10.13 8区、流路SD1700東岸部分、黒灰粘土掘り下げ。灰青粗砂の壁が出る。黒灰粘土下の淡灰粗砂掘り下げ。
- 10.14 8区、流路SD1700東岸部分、淡灰粗砂と暗灰粘土掘り下げ。流路SD1700最下層の土器は飛鳥I。写真撮影。
- 10.15 6区、断ち割り。南半部で塀より古い東西砂溝(SD1733)あり。
- 10.16 6区、断ち割り。
- 10.17 6区、断ち割り。南側西辺の黄色土の落ち込み(SX1732)中に、石組溝(SD1734)検出。
- 10.20 6区、断ち割り。砂溝SD1733掘り下げ。落ち込みSX1732掘り下げ。
- 10.21 6区、断ち割り。落ち込みSX1732の状況をつかむため西側に拡張。5区、断ち割り。
- 10.22 6区拡張区、灰褐粘土とその下の灰褐ガラス層掘り下げ。5区、断ち割り。
- 10.23 6区拡張区、断ち割り。落ち込みSX1732は、西側が大きくこわされる。5区、断ち割り。
- 10.24 6区、拡張区の北側再拡張。1区、断ち割り。
- 10.27 6区拡張区、落ち込みSX1732はさらに北へ続く。西側は南北土坑で大きくこわされる。
- 10.28 6区拡張区、落ち込み・南北土坑・南北溝の掘り下げ。その西は河川堆積の礫層となる。2区、断ち割り。
- 10.29 6区拡張区の写真撮影。
- 10.30 6区、実測開始。
- 10.31 6区、断ち割り。
- 11.4 6区、断ち割り。落ち込みSX1732は川沿いの軟弱基盤の整地と理解。
- 11.5 6区、断ち割り。
- 11.10 4区・6区、清掃。
- 11.11 空撮。
- 11.12 埋め戻し。
- 11.13 埋め戻し。調査途中の9・10区、次年度調査とする。

ix 飛鳥藤原第92次調査 1998年4月7日～6月15日

- 4.7 調査準備作業。
- 4.9 調査準備作業。予定調査区の確認。
- 4.10 E区（第86次9区）黄灰土下の茶褐土面で、溝・土坑・小穴検出。写真撮影。C区（第86次10区）黄灰土掘り下げ。
- 4.13 B区・D区・F区、重機掘削。
- 4.15 F区・H区、重機掘削。A区、耕土・床土除去。
- 4.16 H区・G区、重機掘削。
- 4.20 C区、茶褐土面で遺構検出。北半の茶褐土掘り下げ。A区、黄灰土下の茶褐土面で遺構検出。斜行溝3条検出。
- 4.21 C区、遺構検出。柱穴検出。A区、西端部一部拡張。写真撮影。
- 4.22 C区、新たに柱穴検出。D区、遺構検出。南北方向の堀2条（SA1749・SA1750）、東西溝2条（SD1751・SD1752）を検出。写真撮影。B区は砂の堆積で崩壊激しく調査不可能。第86次で確認した流路SD1700の中と思われる。I区、重機掘削。
- 4.23 F区開始。黄灰土下の暗褐土面が遺構面となる。
- 4.24 A～E区、実測にかかる。
- 4.27 C区、新たな柱穴検出し、L字につながる柱列が2つになる。建物か（SB1747・SB1748）。F区、黄灰土掘り下げ。
- 4.28 F区、黄灰土掘り下げ。
- 4.30 F区、暗褐土面で遺構検出。中央部で大きい柱穴3カ所検出。
- 5.1 F区、遺構検出。
- 5.6 F区、遺構検出。中央部柱穴群は、第86次検出建物SB1721の柱穴で、西廂の建物となる。
- 5.7 F区、遺構検出。北側で建物SB1721と同方向の堀1条（SA1724）まとまる。
- 5.8 F区、写真撮影。
- 5.11 H区、黄灰土掘り下げ。F区、実測にとりかかる。
- 5.12 H区、西半は赤褐土、東半は灰砂土面で遺構検出。G区開始。
- 5.13 H区、第86次から続く堀SA1726の柱穴検出。G区、西半の灰茶粘土掘り下げ。
- 5.14 H区、堀SA1726の柱穴検出。G区、灰茶粘土掘り下げ。西側の礫層面で、流路SD1700最末期の東肩出る。東岸の古い時期の堆積土から木簡1点出土。
- 5.15 H区・G区、写真撮影。
- 5.18 I区、黄灰土掘り下げ。

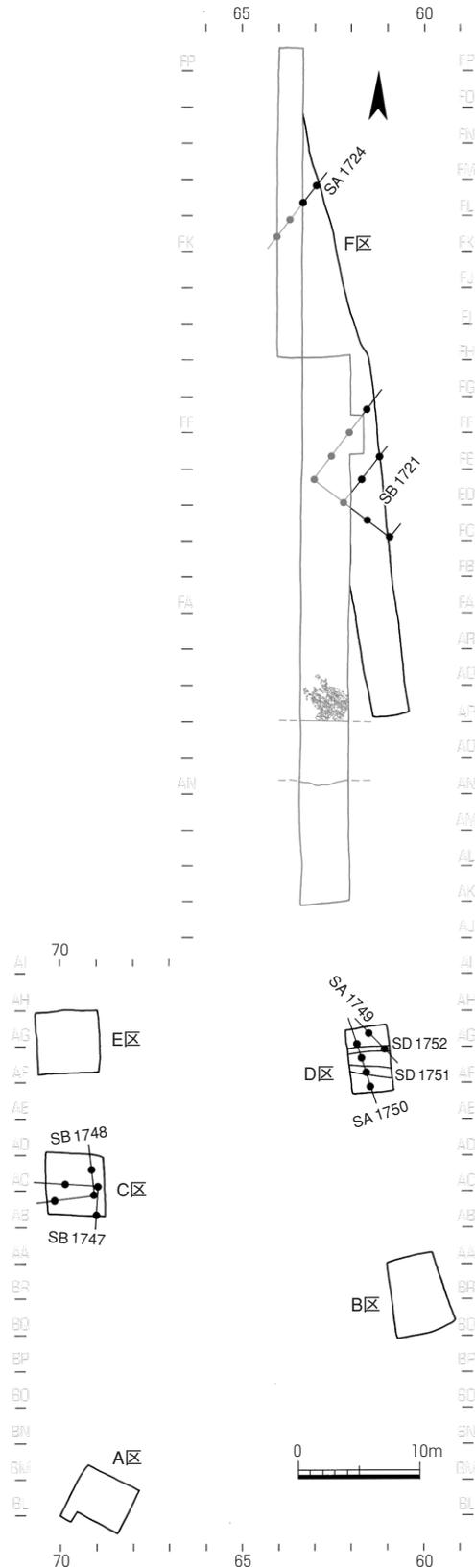


Fig. 40 第92次調査 A～F区 1:600

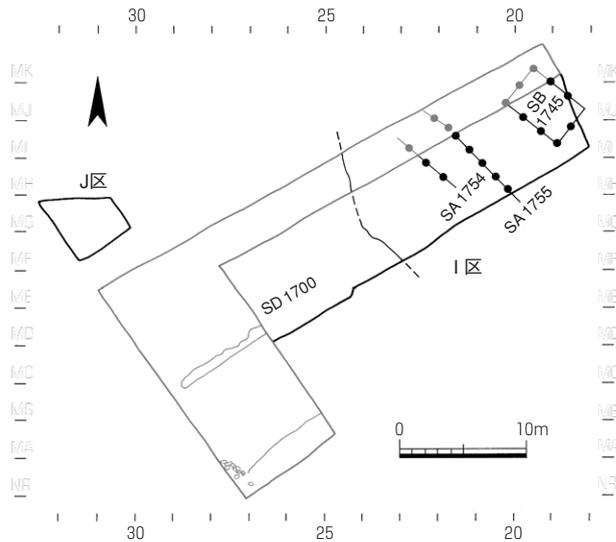


Fig. 41 第92次調査 I・J区 1:600

5.19 I区、黄灰土掘り下げ。G区、流路SD1700掘り下げ。灰茶粘土の下、褐砂土・灰砂礫・灰砂土掘り下げ。西側で青灰山土、東側で灰粘土が出る。その間の灰褐砂からは飛鳥Iの土器出土。H区、実測。

5.20 G区、流路SD1700中心部、灰褐砂下の褐灰砂掘り下げ。青灰山土は地山で、東岸でも灰粘土下に出る。I区、黄灰土除去。東側で柱穴検出。

5.21 G区、写真撮影。実測開始。I区、黄灰土除去。22ラインくらいから西側は粘質土となる。流路SD1700の堆積か。

5.22 I区、西半の暗灰シルト掘り下げ。東半の柱穴精査。

5.25 I区、西半の暗灰シルト掘り下げ。J区開始。耕土・床土除去。灰茶粘質土掘り下げ。

5.26 C区、柱穴の断ち割り。I区、暗灰シルト掘り下げ。この下はもりあがった灰粗砂を境に、東が暗青灰砂土、西が粘質土となる。

5.27 D区、柱穴の断ち割り。I区、暗青灰砂土下の暗灰褐粘土掘り下げ。茶褐砂土となる。

5.28 F区、柱穴の断ち割り。I区、東側の柱穴精査。建物1棟(SB1745)まとまる。写真撮影。



Fig. 42 調査風景

5.29 F区、柱穴の断ち割り。H区、柱穴の断ち割り。I区、流路SD1700の掘り下げ。J区、灰茶粘質土掘り下げ。

6.1 I区、流路SD1700東側は、茶褐砂土下の灰褐砂土掘り下げ。西側、暗褐粘質土下の灰バラス掘り下げ。J区、灰粘土掘り下げ。

6.2 I区、流路SD1700西側の灰バラス掘り下げ。東側は灰褐砂土下の褐細砂掘り下げ。J区、褐粘土掘り下げ、耕土面から1.5mに至る。

6.3 I区、流路SD1700の褐細砂・灰砂礫掘り下げ。中央にあぜ状に残った部分は、灰砂礫より上の堆積。J区、粘土と砂の互層を掘り下げ。

6.4 I区、流路SD1700中央のあぜ状に残った部分の掘り下げ。J区、全面灰バラス層となる。北西へ傾斜する。

6.5 J区、北西に向かう流路の中の様相と理解する。第84次方形池SG1100からのびる石組排水路SD1101を想定したが、同レベルで未検出であった。写真撮影。実測。I区、流路SD1700中央のあぜ状に残った部分掘り下げ。写真撮影。

6.8 I区、東側精査。流路SD1700に平行する堀(SA1755)をまとめるが、第86次のSA1744とは別となる。写真撮影。

6.9・10 I区、実測。

6.11・12 I区、東側柱穴群の断ち割り。

6.15 I区、東側柱穴の精査を終え、第92次調査終了。

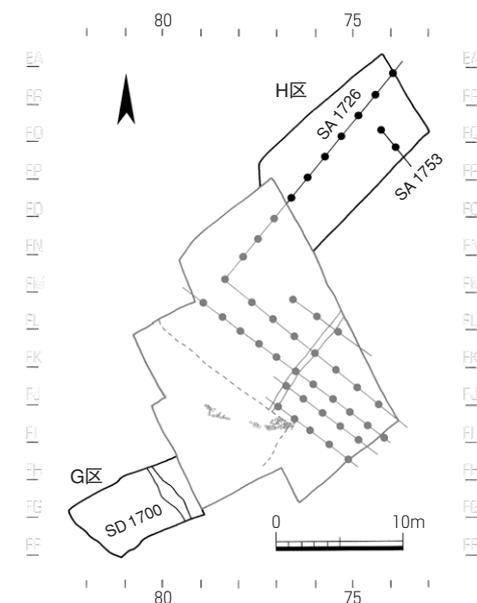


Fig. 43 第92次調査 G・H区 1:600

x 飛鳥藤原第106次調査 2000年2月7日～4月13日

2.7～15 調査区設定。重機による掘削。

2.16 I区西半、小溝・土坑など検出、東半の急斜面に小さい平坦面あり。炉跡(SX1661)検出。

2.17 I区西半、土坑など掘り下げ。東斜面の炉跡SX1661は地山が凹み、粘質土がおかれた上に焼土がのる。II区遺構検出。中央に平坦部があり、炭・焼土のブロック堆積。

2.18 I区、上段東側の茶褐色粘質土、赤褐色粘質土掘り下げ。II区、小溝検出。

2.21 I区、上段東端落ち込みは方形になる。II区、小溝掘り下げ。暗褐土下の炭や焼土のひろがりを出していく。

2.22 I・II区写真。II区、炭・焼土のひろがり部分南側の精査。銅、鉄片あり。南壁部分断ち割り。III区、南側から暗褐土の掘り下げ。

2.23 II区、炭・焼土部分精査。黄色粘質土が上下2面あり、上面に炉跡SX1662検出。南壁断ち割り部の断面には2枚の炭層がみえる。III区、暗褐土掘り下げ。

2.24 II区、南壁断ち割り部分にうすい炭層がのる平坦面あり。III区、暗褐土掘り下げ。

2.25 II区、上段部分は地山面を出す。東半部北壁断ち割り。III区、茶褐色面を出す。北西側で落ち込みあり、含炭暗褐土が堆積する。

2.28 III区、北側の第87次調査区部分を清掃し、炭層の確認。

2.29 IV区、北半部の調査。

3.1 III区、含炭暗褐土部分、第87次調査区との間にアゼを設けて掘り下げ。IV区、東半部遺構検出。南北方向の小溝検出。

3.2 III区、含炭暗褐土掘り下げ。東側で炉跡群が出はじめるが、南側いっぱいまでは広がらない。南端部分に細い溝がめぐる。IV区、西半部遺構検出。小溝多数。

3.3 IV区、西半部と南半部の遺構検出。小溝検出。

3.6 III区、西側を一部拡張。IV区、西半部と南半部の遺構検出。

3.8 III区、西側拡張部の炭層面を出す。IV区、東



Fig. 44 調査風景

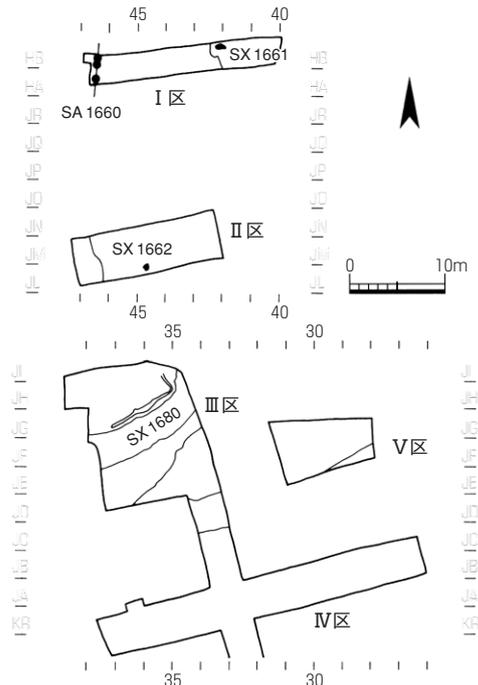


Fig. 45 第106次調査区 1:800

半部遺構検出。

3.9 III区、アゼはすし。西壁部分南側を断ち割り。ガラス埴塀と蓋が出土。IV区、東半部調査区の北側に、区画塀SA1238の続きを探る調査区を設けるが、すぐに地山が出て、柱穴未検出。

3.10 III区、上段部分精査。第87次検出の区画塀SA1238の続きを出すため、昨日の調査区を一部拡張するが遺構なし。

3.13 III区、東側の炉跡・焼土の広がる工房作業面(SX1680)と南端をめぐる溝、小穴などの精査。

3.14 清掃。

3.15 空撮、写真撮影。

3.22 土層図作成。

3.23 III区の写真撮影。I区・II区、炉跡の写真撮影。

3.24～30 実測。

3.31 実測。I区、西端に柱穴2カ所(SA1660)検出。

4.3 実測。III区、西壁一部断ち割り。斜面中段に工房面存在の可能性がある。

4.4 III区、西側拡張部分と西壁部分の断ち割り。

4.5 III区精査。炉跡分析資料採取。I区、西端柱穴は3つありそう。II区、北壁部分断ち割り。

4.6 III区、工房面精査。II区、北壁断ち割り。I区、西端拡張、南北に柱穴3カ所検出。北の2つは重複し、北端が新しい。砂入れ開始。

4.7 I区、柱穴の断ち割り。

4.10～13 埋め戻し。

xi 飛鳥藤原第112次調査 2000年12月26日～2001年3月12日

12.26～28 重機掘削。

1.9・10 重機掘削とともに調査区整形。東壁中央に小さい平坦面、さらに下にもう一段平坦面あり。

1.11 重機掘削。下の平坦面の西側（82ライン付近）には南北方向の石列（SX1709）があり、これから西は腐植土となる。腐植土から平安時代土器出土。

1.12 重機掘削。上段平坦面の炭混灰粘土掘り下げ。下段平坦面に堆積する灰粘土掘り下げ。

1.15 重機掘削。灰粘土掘り下げ。

1.16 調査区壁面の整形。

1.17 壁面整形、壁面土層の分層。

1.18 西側谷部分の調査。腐植土層（茶灰土）の掘り下げ。壁面土層図の作成。

1.19 茶灰土掘り下げ、茶灰土下層の暗灰粘土掘り下げ。文化庁・県、視察。

1.22 暗灰粘土掘り下げ。暗灰粘土下にはさらに腐植土層が堆積。

1.23 暗灰粘土掘り下げ。谷中央部83ライン付近に石列があり、この西側が一段落ちる。

1.24 下層の腐植土を西端から掘り下げる。天理砂岩片出土。文化庁視察。

1.26 下層腐植土の掘り下げ。

1.29 下層腐植土掘り下げ。木簡1点出土。

1.31 83ライン石列の西、下層腐植土掘り下げ。82ライン石列の西側、茶灰土掘り下げ。下段平坦面（CN79）で炉跡（SX1713）検出。

2.2 下段平坦面の西斜面（81ライン付近）調査。

2.5 下段平坦面西斜面の遺構検出。中央部分で古墳時代の竪穴状遺構（SX1706）検出。CP81の中世大土坑掘り下げ。

2.8 竪穴状遺構SX1706の精査。

2.9 上段の平坦面遺構検出。石が入る斜行溝（SD1701）掘り下げ。文化庁視察。

2.13 上段平坦面から東側の遺構検出。西側やや北寄りに石溜り（石組遺構SX1710）がある。

2.14 上段平坦面の調査。石組遺構SX1710埋土は赤色土で平坦面の造成土か。

2.15 上段平坦面の調査。

2.16～20 上段平坦面西斜面から下段平坦面の遺構検出。

2.21 上段平坦面西斜面から下段平坦面の精査。下段平坦面から谷にかけてと、南西隅の谷部分に断ち割りのトレンチ設定。

2.22 下段平坦面、炉跡周辺の精査。北側トレンチの掘り下げ。

2.23 下段平坦面、炉跡周辺の精査。前に検出していた炉跡の南にもう1基炉跡（SX



Fig. 46 調査風景

1704) 検出。北側トレンチ掘り下げ。

2.26 写真撮影。

2.27 空撮。写真撮影。

2.28 上段石組遺構SX1710の精査。実測開始。

3.1 北側トレンチ掘り下げ。

3.2 炉跡周辺精査。北側トレンチ掘り下げ。

3.5 北側トレンチ掘り下げ、82ライン付近で南北溝（SD1707）検出。7世紀前半の土器出土。西南隅のトレンチ掘り下げ。

3.6 北側トレンチの調査。南北溝の掘り下げ。西南隅トレンチ掘り下げ。

3.7 上段遺構の精査。石組遺構SX1710北側で炉跡（SX1702）検出。西南隅のトレンチ掘り下げ。

3.8 北側トレンチの南北溝SD1707の下層に南北細溝検出。西南隅トレンチで南北溝（SD1708）検出。下段平坦面の炉跡周辺精査。

3.9 下段平坦面中央付近で断ち割りのトレンチを設ける。古墳時代の南北溝（SD1705）を検出。

3.10 下段平坦面、炉跡の精査。

3.12 下段平坦面西斜面の精査。砂入れ。

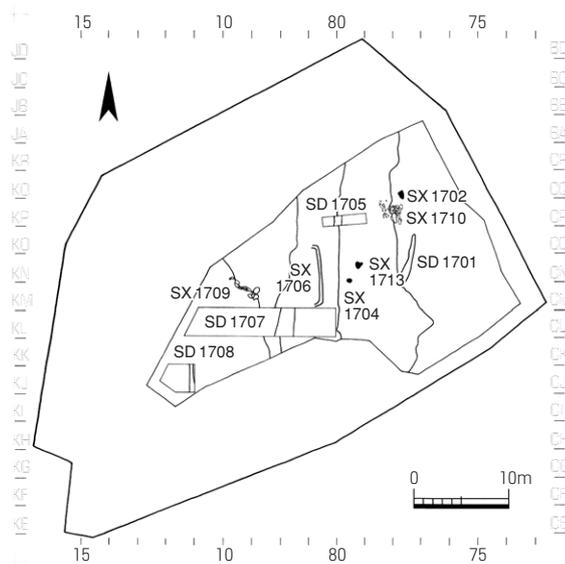


Fig. 47 第112次調査区 1:800